

## 7. 周辺地域動態



## 7. 周辺地域動態

### 7.1 進め方

#### 7.1.1 整理方針

周辺地域動態は、大きく2つの流れで整理する。一つは、地域との関わりという点で、地域社会情勢の変遷を整理するとともに、地域連携のための取り組みを紹介する。もう一つの流れとして、周辺施設や湖の利用状況を把握する。

#### 7.1.2 整理手順

整理方針のとおり大きく2つの流れにより行い、とりまとめることとする。

作業のフローは図 7.1.2-1 に示すとおりである。

##### (1) 周辺地域の概況

周辺地域の地勢や人口等の概要、交通条件や観光施設等の立地特性等の視点から周辺地域の概況を把握する。

##### (2) 事業と地域社会情勢の変遷

周辺地域の社会情勢、計画等について事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理する。これらのまとめにより、周辺地域の地域特性や近年の動向を把握する。

##### (3) 地域連携のための取り組み

管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年程度の管理者と地域の交流事項等について整理する。

##### (4) 周辺施設や湖の利用状況

湖の周辺施設について紹介し、施設入り込み数、イベント開催状況等の利用状況を整理する。

##### (5) まとめ

以上より、地域と事業の関わり、周辺施設等の利用状況をまとめる。

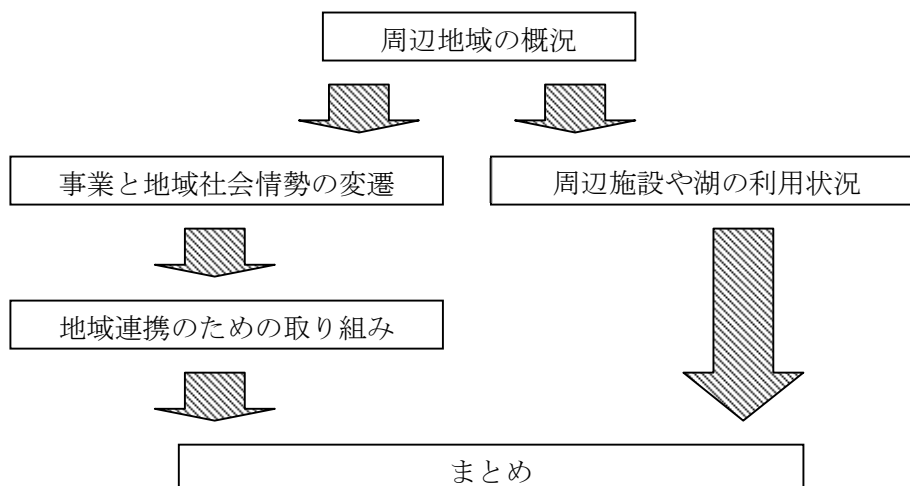


図 7.1.2-1 検討手順

#### 7.1.3 必要資料(参考資料)の収集・整理

湖周辺の社会情勢、利用、整備状況等に関わる資料等、まとめに必要となる資料について収集し、リストを作成する。収集した資料は「7.6 文献リストの作成」において整理する。

## 7.2 周辺地域の概況

### 7.2.1 周辺地域の概要

琵琶湖を囲む滋賀県は、図 7.2.1-1 に示すとおり伊吹、鈴鹿、比良、比叡などの山々に囲まれた盆地である。中央に滋賀県全面積の約6分の1を占める日本一の湖、琵琶湖をかかえ、周囲の山々から流れ出る多くの川が琵琶湖に注いでいる。

#### (1) 流域の概況

2003年(平成15年)まで8市41町1村であった滋賀県は、2004年(平成16年)10月1日の市町村合併により、2町の合併により野洲市、湖南市、5町合併により甲賀市が誕生し、近年まで合併特例法の下で市町村合併が進み、現在では13市6町の計19市町となっており、新たなまちづくりの取組みが始まっている。琵琶湖並びに滋賀県内の市町村面積を表7.2.1-1に示す。

表 7.2.1-1 琵琶湖並びに滋賀県内の市町村面積

市町名	旧市町村名		市町名	旧市町村名	
	旧市町村名	面積 (km <sup>2</sup> )		旧市町村名	面積 (km <sup>2</sup> )
琵琶湖		670.25	高島市	高島郡マキノ町	693.00
大津市	大津市	464.10	東近江市	高島郡今津町	
	滋賀郡志賀町			高島郡朽木村	
彦根市	彦根市	196.84		高島郡安曇川町	
長浜市	長浜市	680.79		高島郡高島町	
	東浅井郡びわ町			高島郡新旭町	
	東浅井郡浅井町		八日市市		
	東浅井郡虎姫町		神崎郡永源寺町		
	東浅井郡湖北町		神崎郡五箇荘町		
	伊香郡高月町		愛知郡愛東町		
	伊香郡木之本町		愛知郡湖東町		
	伊香郡余呉町		蒲生郡蒲生町		
伊香郡西浅井町	神崎郡能登川町	388.58			
近江八幡市	旧近江八幡市	177.39	米原市	坂田郡米原町	250.46
	蒲生郡安土町		坂田郡山東町		
草津市	草津市	67.92	坂田郡伊吹町		
守山市	守山市	55.73	坂田郡近江町		
栗東市	栗東市	52.75	蒲生郡		
甲賀市	甲賀郡水口町	481.69	日野町	蒲生郡日野町	117.63
	甲賀郡土山町		竜王町	蒲生郡竜王町	44.52
	甲賀郡甲賀町		愛知郡		
	甲賀郡甲南町		愛荘町	愛知郡秦荘町	37.95
	甲賀郡信楽町		愛知郡愛知川町		
野洲市	野洲郡中主町	80.15	犬上郡		
	野洲郡野洲町		豊郷町	犬上郡豊郷町	7.82
湖南市	甲賀郡石部町	70.49	甲良町	犬上郡甲良町	13.62
	甲賀郡甲西町		多賀町	犬上郡多賀町	135.93

出典：文献リスト No. 7-1

市町村合併：滋賀県 HP「市町村合併」参照

- ✓ 2004年(平成16年)10月1日に旧野洲町、旧中主町が合併し、「野洲市」になった。
- ✓ 2004年(平成16年)10月1日に旧水口町、旧土山町、旧甲賀町、旧甲南町、旧信楽町が合併し、「甲賀市」になった。
- ✓ 2004年(平成16年)10月1日に旧石部町、旧甲西町が合併し、「湖南町」になった。
- ✓ 2005年(平成17年)1月1日に旧高島郡(マキノ町、今津町、安曇川町、高島町、新旭町、朽木村)が合併し、「高島市」になった。
- ✓ 2005年(平成17年)2月11日に旧八日市市、旧神埼郡(永源寺町、五個荘町)、旧愛知郡(愛東町、湖東町)が合併し、「東近江市」になった。
- ✓ 2005年(平成17年)2月14日に旧坂田郡(米原町、山東町、伊吹町)が合併し、「米原市」になった。
- ✓ 2005年(平成17年)10月1日に旧米原市、旧坂田郡近江町が合併し、「米原市」になった。
- ✓ 2006年(平成18年)1月1日に旧東近江市、旧蒲生郡蒲生町、旧神埼郡能登川町が合併し、「東近江市」になった。
- ✓ 2006年(平成18年)2月13日に旧長浜市、旧東浅井郡浅井町、旧東浅井郡びわ町と合併し、「長浜市」になった。
- ✓ 2006年(平成18年)2月13日に旧愛知郡(泰荘町、愛知川町)が合併し、「愛荘町」になった。
- ✓ 2006年(平成18年)3月20日に旧大津市、旧滋賀郡志賀町が合併し、「大津市」になった。
- ✓ 2008年(平成22年)1月1日に旧長浜市、旧東浅井郡(虎姫町、湖北町)が合併し、「長浜市」となった。
- ✓ 2008年(平成22年)3月21日に旧近江八幡市、旧蒲生郡安土町が合併し、「近江八幡市」となった。

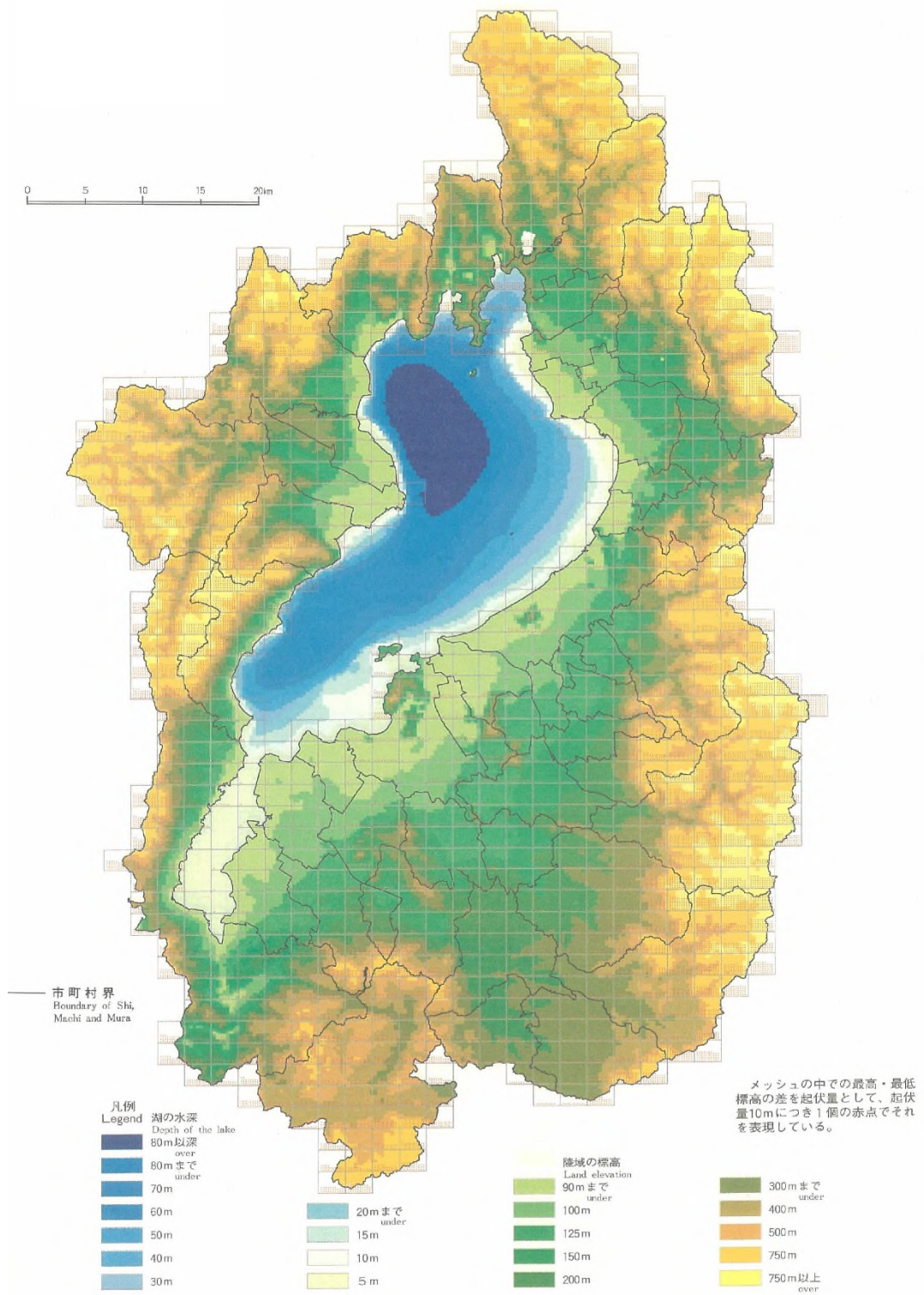


図 7.2.1-1 琵琶湖流域の地形図

注) 1985年(昭和60年)当時の市町村界であり現在の市町村界とは異なる。

出典: 文献リスト No. 7-2

## (2) 人口・世帯数の推移

琵琶湖周辺流域（滋賀県）における人口・世帯数の推移を表 7.2.1-2、図 7.2.1-2 に示す。

滋賀県内の人口は、1950 年(昭和 25 年)頃から 1960 年(昭和 35 年)代後半頃までの 10 年間は 85 万人前後に推移していたが、その後、2000 年(平成 12 年)頃まで急激な増加を続け、2000 年(平成 12 年)に約 134 万人となり、その後微増傾向となり 2014 年(平成 26 年)以降は、わずかに減少傾向が見られる。2017 年(平成 29 年)時点で約 141 万人となっている。滋賀県は琵琶湖周辺流域に相当することから、この 57 年間で琵琶湖流域の人口が約 57 万人(約 1.7 倍)増加したと言える。

表 7.2.1-2 滋賀県内の人口・世帯数の推移

	明治23年	明治33年	明治43年	大正4年	大正9年	大正14年	昭和5年	昭和10年	昭和15年	昭和22年	昭和25年	昭和30年
世帯数(世帯)	134,861	131,054	131,801	133,990	143,426	144,662	147,962	151,132	149,135	182,730	178,689	177,482
総人口(人)	677,500	701,786	693,018	712,076	651,050	662,412	691,631	711,436	703,679	858,367	861,180	853,734
	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成18年*	平成19年*
世帯数(世帯)	183,277	195,831	215,263	250,944	302,635	330,012	362,253	405,349	453,695	495,960	506,434	516,221
総人口(人)	842,695	853,385	889,768	985,621	1,079,898	1,155,844	1,222,411	1,287,005	1,342,832	1,380,361	1,387,110	1,394,809
	平成20年*	平成21年*	平成22年	平成23年*	平成24年*	平成25年*	平成26年*	平成27年	平成28年*	平成29年*		
世帯数(世帯)	525,008	530,281	517,748	542,753	548,814	552,482	555,821	558,145	561,085	563,804		
総人口(人)	1,401,073	1,402,132	1,410,777	1,414,398	1,414,546	1,416,952	1,416,500	1,412,916	1,413,079	1,412,956		

- 注)1 ※印の人口と世帯数および 1980 年(昭和 55 年)、1985 年(昭和 60 年)、1990 年(平成 2 年)、1995 年(平成 7 年)、2000 年(平成 12 年)、2005 年(平成 17 年)～2017 年(平成 29 年)の世帯数については県推計による。
- 2) 1890 年(明治 23 年)～1910 年(明治 43 年)および 1915 年(大正 4 年)については各年 12 月末現在である。

出典：文献リスト No. 7-3、7-4

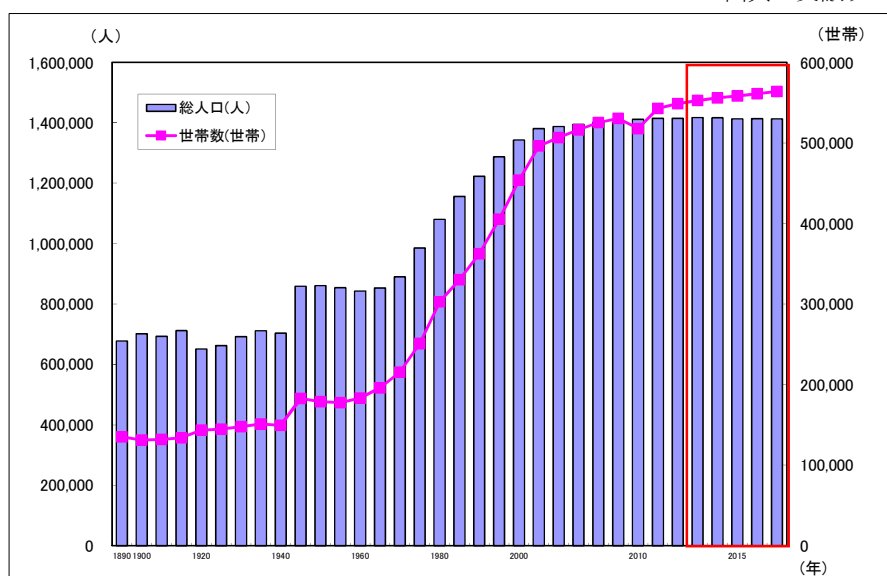


図 7.2.1-2 滋賀県内の人口・世帯数の推移

出典：文献リスト No. 7-3、7-4

### (3) 就業者数の推移

琵琶湖周辺流域（滋賀県）における就業者数の推移を表 7.2.1-3、図 7.2.1-3 に示す。

平成 22 年から 27 年にかけて第 1 次産業～第 3 次産業において全体的に若干の減少傾向にある。また、各年とも第 3 次産業が全体の 50%強を占めている。なお、近年、分類不能な産業が増加している。

表 7.2.1-3 滋賀県内における就業者数の推移

産 業 別	就 業 者 数 (人)						増加率 (%)				
	平成 2 年	7	12	17	22	27	12/7	17/12	22/17	27/22	
総数	600,978	654,947	669,487	680,478	673,612	677,976	2.2	1.6	△0.0	0.0	
第 1 次産業	34,527	33,047	23,518	25,145	18,548	17,935	△28.8	6.9	△0.3	△0.0	
農業	32,827	31,518	22,213	24,133	17,380	16,971	△29.5	8.6	△0.3	△0.0	
林業	663	637	530	366	648	497	△16.8	△30.9	0.8	△0.2	
漁業	1,037	892	775	646	520	467	△13.1	△16.6	△0.2	△0.1	
第 2 次産業	255,076	267,257	259,531	234,322	220,587	220,904	△2.9	△9.7	△0.1	0.0	
鉱業	358	378	304	196	178	163	△19.6	△35.5	△0.1	△0.1	
建設業	47,437	57,240	56,276	50,194	41,751	39,953	△1.7	△10.8	△0.2	△0.0	
製造業	207,281	209,639	202,951	183,932	178,658	180,788	△3.2	△9.4	△0.0	0.0	
第 3 次産業	309,539	352,168	378,477	411,386	400,229	414,488	7.5	8.7	△0.0	0.0	
電気・ガス・熱供給・水道業	3,063	3,558	3,789	2,917	2,818	2,873	6.5	△23.0	△0.0	0.0	
運輸・通信業	31,981	35,771	36,841	-	-	-	3.0	-	-	-	
(情報通信業)	-	-	-	8,249	8,015	8,468	-	-	-	0.1	
(運輸業)	-	-	-	29,911	32,427	31,699	-	-	-	△0.0	
卸売・小売業、飲食店	110,528	123,423	129,818	-	-	-	5.2	-	-	-	
(卸売・小売業)	-	-	-	107,326	99,093	95,455	-	-	-	△0.0	
金融・保険業	15,523	16,452	14,924	14,174	14,077	13,827	△9.3	△5.0	△0.0	△0.0	
不動産業	3,765	4,187	4,758	5,808	7,963	9,155	13.6	22.1	0.4	0.1	
サービス業	124,300	147,797	166,309	-	-	-	12.5	-	-	-	
学術研究、専門・技術サービス	-	-	-	-	-	17,840	-	-	-	-	
(飲食店・宿泊業)	-	-	-	29,441	34,766	35,144	-	-	0.2	0.0	
生活関連サービス業、娯楽業	-	-	-	-	-	22,935	-	-	-	-	
(医 療 ・ 福 祉)	-	-	-	56,555	66,323	78,390	-	-	0.2	0.2	
(教育・学習支援業)	-	-	-	32,162	32,394	34,005	-	-	0.0	0.0	
(複合サービス事業)	-	-	-	7,928	4,719	5,844	-	-	△0.4	0.2	
(サービス業 (他に分類されないもの))	-	-	-	93,877	75,872	36,379	-	-	△0.2	△0.5	
公務 (他に分類されないもの)	20,379	20,980	22,038	23,038	21,762	22,474	5.0	4.5	△0.1	0.0	
分類不能の産業	1,836	2,475	7,961	9,625	34,248	24,649	221.7	20.9	2.6	△0.3	

注) 2002 年(平成 14 年)に産業分が改訂されたため、2000 年(平成 12 年)以前の産業分類と 2005 年(平成 17 年)の産業分類とはリンクしていない。

出典：文献リスト No. 7-3

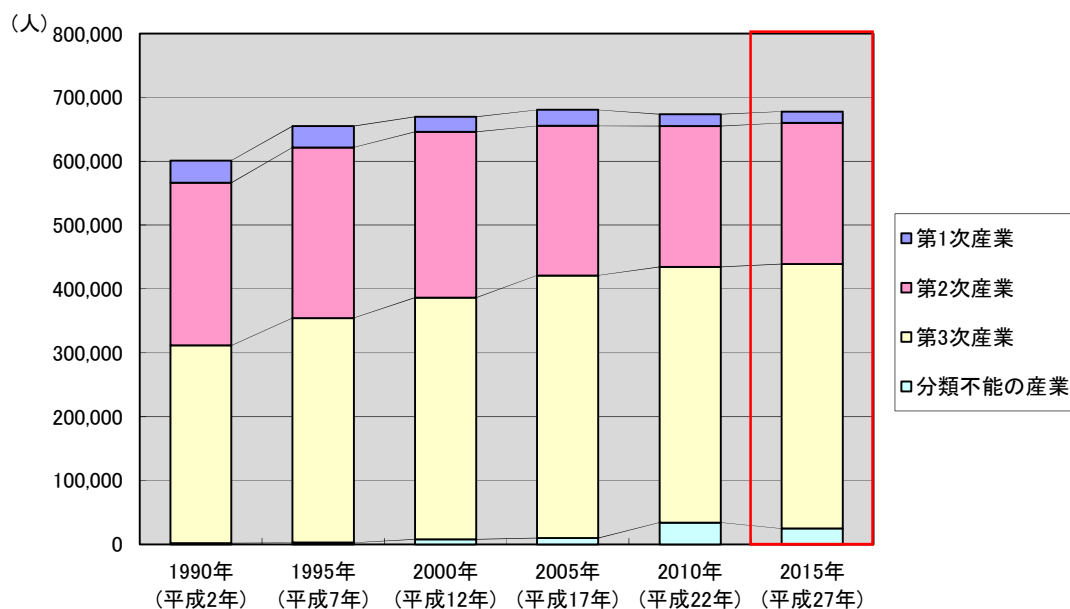


図 7.2.1-3 滋賀県内における就業者数の推移

出典：文献リスト No. 7-3



#### (4) 土地利用と産業

滋賀県と全国の用途別土地利用面積の推移について、図 7.2.1-4 に示す。

1967年(昭和42年)から2010年(平成22年)の48年間の変化を見ると、水田は650km<sup>2</sup>から499km<sup>2</sup>と151km<sup>2</sup>(23%)の減少、畑地は87km<sup>2</sup>から56km<sup>2</sup>と31km<sup>2</sup>(36%)の減少、宅地は85km<sup>2</sup>から229km<sup>2</sup>と144km<sup>2</sup>(169%)の増加であり、同期間における全国値(16%減, 9%減, 135%増)と比較すると、都市化の進行に伴う農地から宅地その他への転用が急速に行われたといえる。

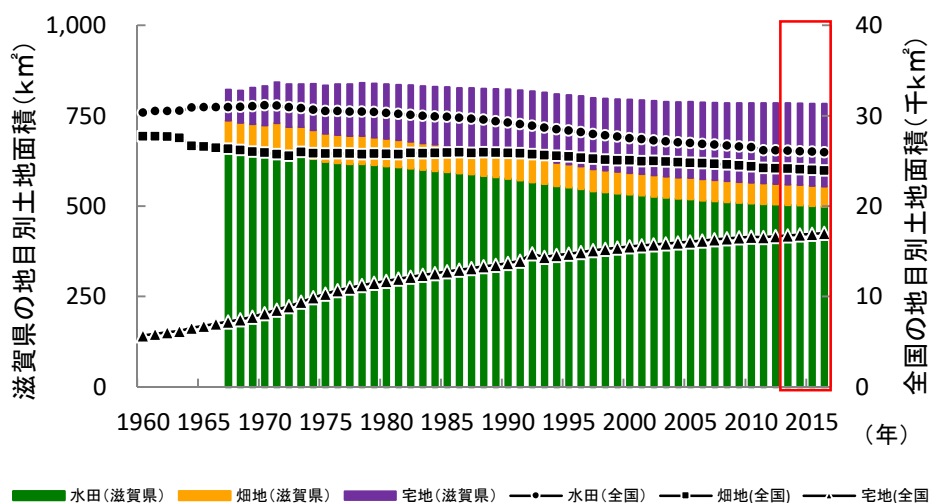


図 7.2.1-4 滋賀県と全国の用途別土地利用面積の推移

出典：文献リスト No. 7-5、7-6

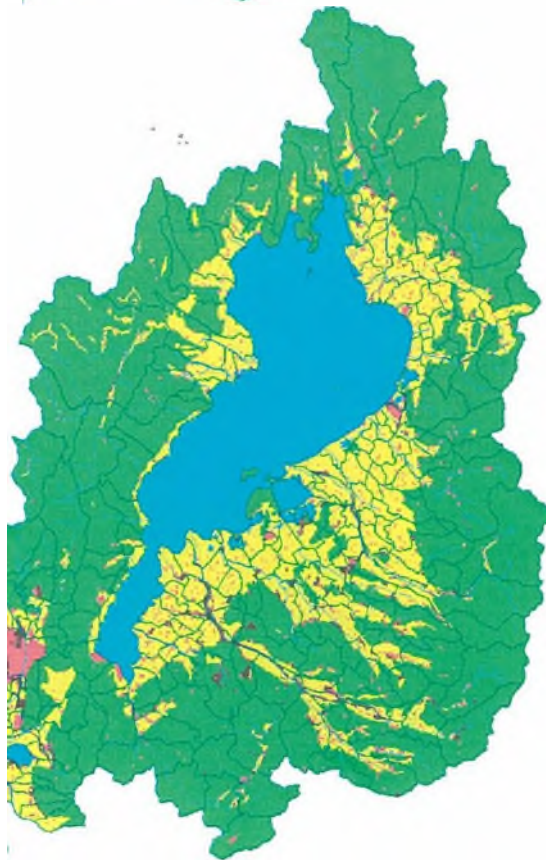
図 7.2.1-5 に示す琵琶湖流域の土地利用分布をみると、農地は主に琵琶湖東岸の低地に分布しており、西岸側にはわずかにしかないことがわかる。市街地についても同様に、西岸より東岸に多く分布しており、他には南部の地域にも多く分布している。

また、経年的な推移からみると、東岸域を中心に森林が農地に改変していく状況がうかがえ、近年では、これらの農地が宅地に変わっていることがわかる。

1895年（明治28年）



1913年（大正2年）

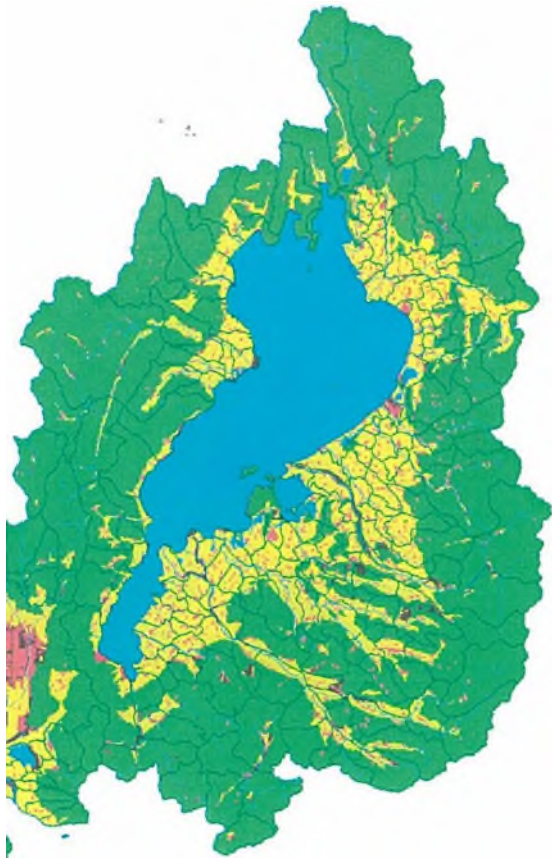


凡 例	
—	市 町 村 境 界 Municipality Boundary
■ (Green)	森 林 Forests
■ (Yellow)	農 地 Farm Land
■ (Red)	市 街 地 Urban Areas
■ (Grey)	未 分 類 地 Unidentified Areas
■ (Blue)	水 面 Water areas

図 7.2.1-5(1) 琵琶湖流域の土地利用状況

出典：文献リスト No. 7-7

1935年 (昭和10年)



1955年 (昭和30年)



凡 例	
— 市 町 村 境 界	Municipality Boundary
■ 森	Forests 林
■ 農 地	Farm Land 地
■ 市 街 地	Urban Areas 地
■ 未 分 類 地	Unidentified Areas 地
■ 水	Water areas 面

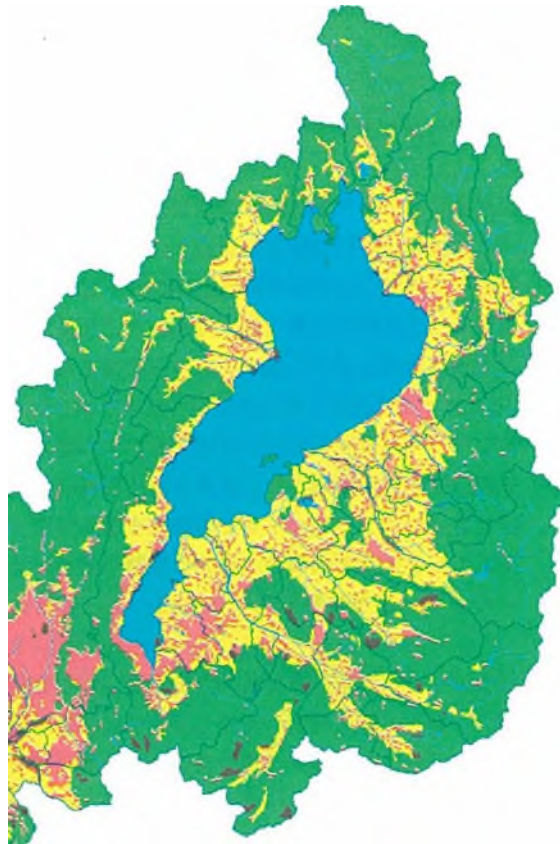
図 7.2.1-5(2) 琵琶湖流域の土地利用状況

出典：文献リスト No. 7-7

1975年（昭和50年）



1992年（平成4年）



凡 例	
—	市 町 村 境 界 Municipality Boundary
■	森 Forests
■	農 Farm Land
■	市 街 Urban Areas
■	未 分 類 地 Unidentified Areas
■	水 Water areas

図 7.2.1-5(3) 琵琶湖流域の土地利用状況

出典：文献リスト No. 7-7

2014年（平成26年）

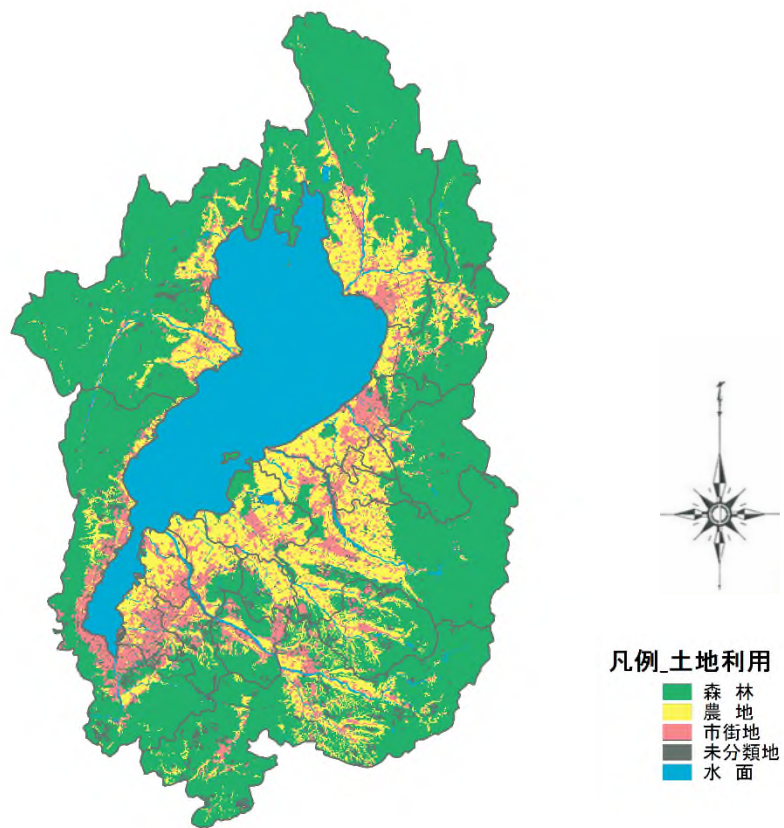


図 7.2.1-5(4) 琵琶湖流域の土地利用状況  
(2014年(平成26年))

出典：文献リスト No. 7-8

## 7.2.2 立地特性

### (1) 琵琶湖へのアクセス

琵琶湖は大阪から北東へ 40km、京都より東へ 10km のところに位置し、琵琶湖周辺は古来より交通網が発達してきた。大阪都心部から自動車で名神高速道路を利用して約 1 時間（大津市内）、JR 東海道、京阪線を利用して約 1 時間（大津駅、浜大津駅）でアクセスでき、また、京都からは自動車で名神高速道路を利用して 20 分（大津市内）、市営地下鉄、京阪線を利用して 30 分（浜大津駅）の位置にある。更に、琵琶湖周辺の交通網が発達していることから周辺地域へのアクセスも容易である。また、琵琶湖開発事業による湖岸堤管理道路は県道としての供用も行われており、観光や流通の他、県民生活にとっても重要な道路として利用されている（図 7.2.2-1、図 7.2.2-2）。

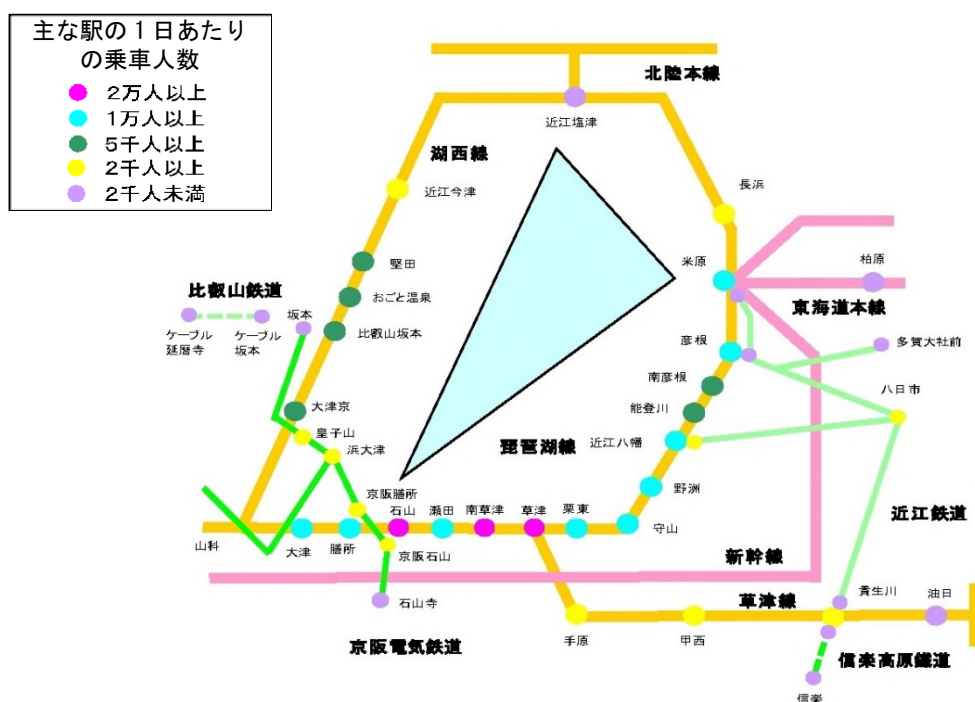


図 7.2.2-1 周辺都市からの交通網

出典：文献リスト No. 7-9

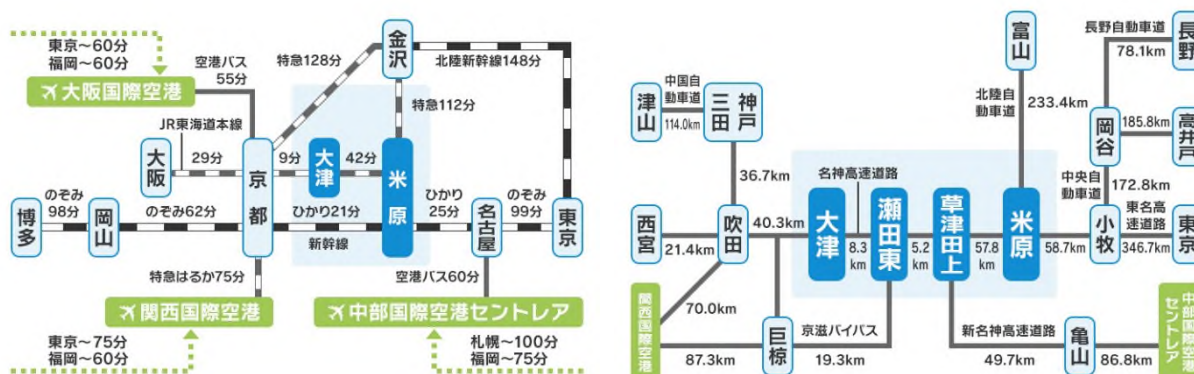
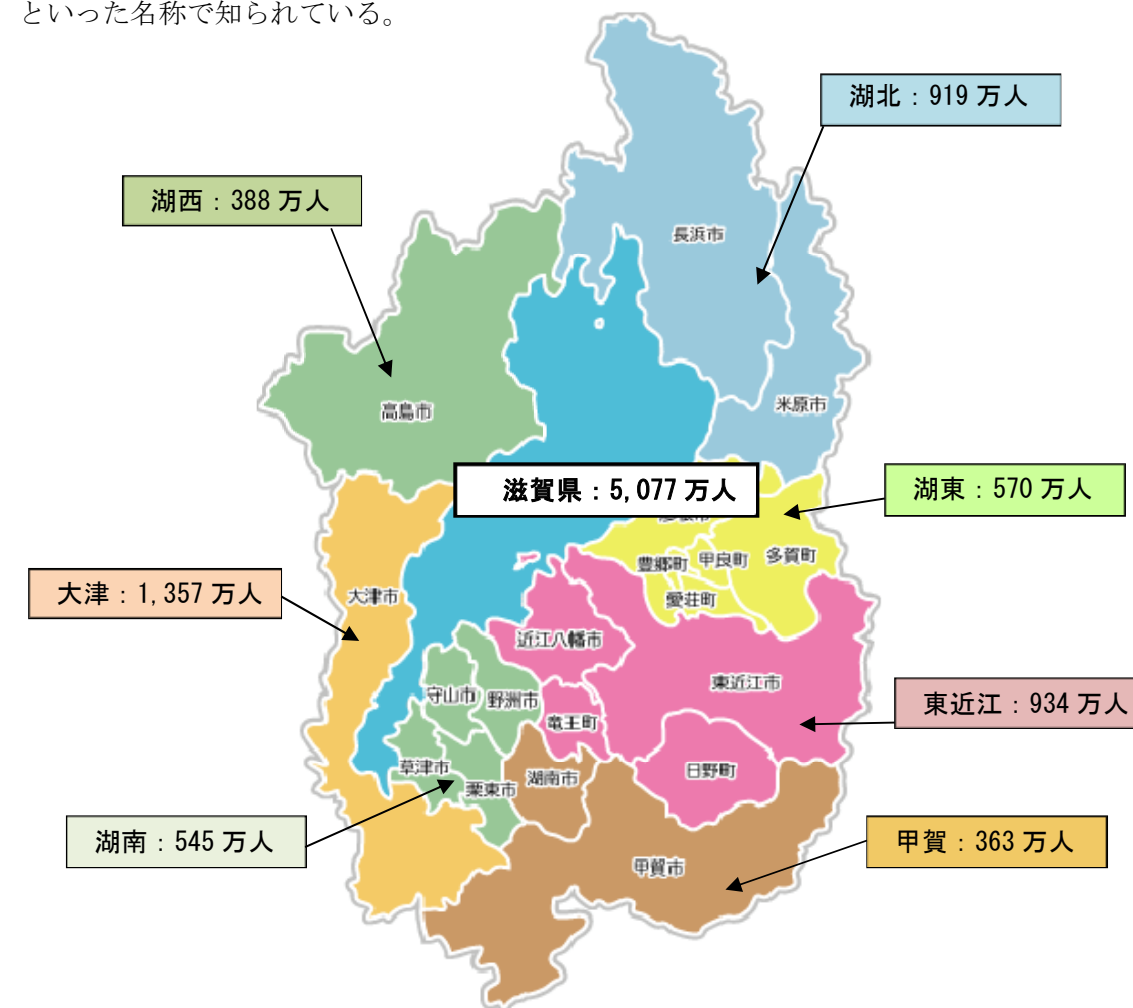


図 7.2.2-2 滋賀県へのアクセス

出典：文献リスト No. 7-10

## (2) 周辺の観光施設等

琵琶湖周辺には、様々な観光資源があり図 7.2.2-3 に示すように多くの人を訪れている。流域の代表的な観光資源としては、琵琶湖の美しい景色として「琵琶湖八景」や「近江八景」といった名称で知られている。



		滋賀県	京都府	大阪府	奈良県	三重県
観光客数 (万人)	平成22年	4,357	7,674	15,883	4,464	3,562
	平成28年	5,077	8,741	未実施	4,407	4,189

図 7.2.2-3 琵琶湖周辺の観光入込み数 (平成22年、平成28年)

出典：滋賀県地図

文献リスト No. 7-11

入込み数

滋賀県：文献リスト No. 7-12、7-13

京都府：文献リスト No. 7-14、7-15

大阪府：文献リスト No. 7-16

奈良県：文献リスト No. 7-17、7-18

三重県：文献リスト No. 7-19、7-20

琵琶湖周辺の観光施設等を図 7.2.2-4 ～図 7.2.2-8、表 7.2.2-1～表 7.2.2-3 に示す。



図 7.2.2-4 琵琶湖周辺の観光名所等

文献リスト No. 7-21

表 7.2.2-1 琵琶湖周辺の観光名所等

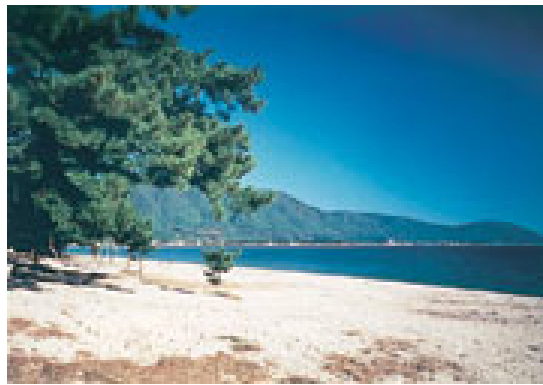
名 称	概 要	所在地
①「暁霧」海津大崎の岩礁	荒々しく、雄大な風景が見られ湖面から立ちのぼる霧が岩礁をつつんで、幻想的です。	高島市 マキノ町
②「涼風」雄松崎の白汀	“松は緑に砂白き...”と、「琵琶湖周航の歌」に歌われています。	大津市 志賀町
③「煙雨」比叡の樹林	深い樹林の中に、延暦寺などが建ちならび、雨にかすむ静かな雰囲気を感じられます。	大津市 坂本本町
④「夕陽」瀬田石山の清流	夕日に映える瀬田川の流れには日本三名橋の一つ唐橋がかかり、美しい風景です。	大津市 瀬田
⑤「新雪」賤ヶ岳の大観	賤ヶ岳は、羽柴秀吉と柴田勝家が戦った「賤ヶ岳の合戦」でその名を歴史にとどめています。	長浜市 木之本町
⑥「深緑」竹生島の沈影	深い緑に包まれ、青い水面に映る島影はびわ湖を代表する風景の一つです。	長浜市 早崎町
⑦「月明」彦根の古城	月明かりに浮かび上がる古城は、訪れる人々に歴史の重みを感じさせます。	彦根市
⑧「春色」安土八幡の水郷	西の湖を中心に水路が網の目のように広がり、ヨシ群落の中を水郷めぐりができます。	近江八幡市 安土町

文献リスト No. 7-21





「暁霧」海津大崎の岩礁



「涼風」雄松崎の白汀



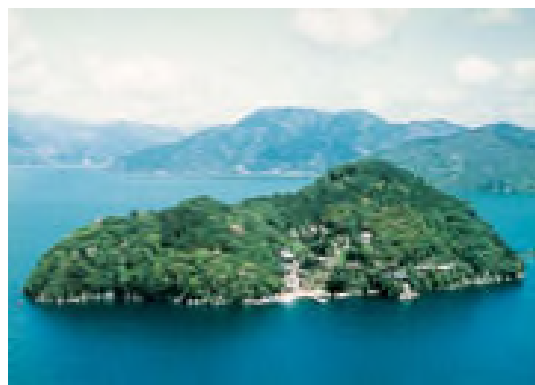
「煙雨」比叡の樹林



「夕陽」瀬田石山の清流



「新雪」賤ヶ岳の大観



「深緑」竹生島の沈影



「月明」彦根の古城



「春色」安土八幡の水郷

図 7.2.2-5 琵琶湖周辺の観光名所等

文献リスト No. 7-21



図 7.2.2-6 琵琶湖周辺の観光名所等

文献リスト No. 7-21

表 7.2.2-2 琵琶湖周辺の観光名所等

比良の暮雪 (ひらのぼせつ)	堅田の落雁 (かたたのらくがん)	唐崎の夜雨 (からさきのやう)	三井の晩鐘 (みいのばんしょう)
			
栗津の晴嵐 (あわづのせいらん)	矢橋の帰帆 (やばせのきはん)	瀬田の夕照 (せたのせきしょう)	石山の秋月 (いしやまのしゅうげつ)
			

文献リスト No. 7-21



図 7.2.2-7 琵琶湖周辺の観光名所等

文献リスト No. 7-22

表 7.2.2-3(1) 琵琶湖周辺の観光名所等

名 称	概 要	所在地
ビワコマイアミランド	平成6年(1994年)4月にオープンしたビワコマイアミランドは、琵琶湖国定公園湖岸緑地マイアミ・アヤメ浜園地にあり、沖島と雄大な比良山系を背景に白砂青松の素晴らしい環境にあります。この恵まれた大自然の中で、のんびりとキャンプやテニス、ローンフィールド、バードウォッチング等を楽しめます。また、四季折々の美しさの中で、野鳥公園、アイリスパーク等の自然を満喫できます。	野洲市
烏丸半島	草津市域の最北、琵琶湖に突き出す烏丸半島周辺には、琵琶湖の原風景といわれるヨシ原が今もその姿をとどめています。半島内には日本最多のスイレンコレクションを誇る「水生植物公園みずの森」、「湖と人間」をテーマに、見て触れて体験できる「琵琶湖博物館」があります。夏の風物詩となった「熱気球フライト」、「イナズマロックフェス」の開催地としても知られ、話題いっぱいのスポットです。	草津市
高島市新旭水鳥観察センター	センターの大きな窓からは穏やかな琵琶湖の入江が一望でき、望遠鏡で見ると、北方から渡ってきた水鳥たちの細やかな仕草がよく分かります。湖岸のコースを歩くとさらに、たくさんの鳥たちが身近に感じられます。	高島市
琵琶湖水鳥・湿地センター	県内随一の野鳥の生息地である湖北町水鳥公園の拠点施設です。湖北野鳥センターでは、設置された望遠鏡(20台)でセンター前の湖岸に羽根を休める野鳥を観察することができます。	長浜市
浮御堂	近江八景「堅田の落雁」で名高い浮御堂は、寺名を海門山満月寺という。平安時代、恵心僧都が湖上安全と衆生済度を祈願して建立したという。現在の建物は昭和12年の再建によるもので、昭和57年にも修理が行われ、昔の情緒をそのまま残している。境内の観音堂には、重要文化財である聖観音座像が安置されている。	大津市

文献リスト No. 7-10

表 7.2.2-3 (2) 琵琶湖周辺の観光名所等

名 称	概 要	所在地
白鬚神社大鳥居 ※1	湖中に朱塗りの大鳥居があり、国道 161 号線をはさんで社殿が鎮座します。「白鬚さん」(しらひげさん)、「明神さん」の名で広く親しまれ、また近江の巖島(いつくしま)とも呼ばれる近江最古の大社です。社名のとおり、延命長寿・長生きの神様として知られ、また、縁結び・子授け・開運招福・学業成就・交通安全・航海安全など、人の営みごと、業ごとすべての「導きの神」でもあります。祭神は猿田彦命(さるとひこのみこと)です。創建約 2000 年の歴史を誇り、現在の社殿は豊臣秀吉の遺命によって、その子秀頼が片桐且元(かたぎりかつもと)を奉行として造営したものです。	高島市
竹生島	沖合約 6km に浮かぶ周囲 2km あまりの小島で、宝厳寺と都久夫須麻神社が祀られています。宝厳寺の本尊は弁才天と千手観音。弁才天は安芸の宮島、相模の江島とともに日本三弁天に数えられています。また、中世以来西国三十三所観音霊場の三十番札所として多くの参詣客で賑わっています。	長浜市
彦根城	姫路城などとともに天下の名城の一つに数えられる彦根城は、井伊直継(なおつぐ)・直孝(なおたか)によって約 20 年の歳月をかけて建設され、元和 8 年(1622)に完成しました。佐和(さわ)山城・安土城・長浜城・大津城の石垣や用材が使われました。月明かりに浮かぶ彦根城は美しく、琵琶湖八景の 1 つに数えられています。	彦根市
滋賀県立琵琶湖博物館	「人と湖」をテーマに、琵琶湖の生い立ち・人と生き物との関わりについて家族で楽しみながら学べる「体験型」博物館です。淡水の生き物の展示としては日本最大級の水族展示は、2016 年夏にリニューアルしてパワーアップ。関西ではここでしか見られない大人気のバイカルアザラシは必見です。古代の湖周辺の様子を再現した原寸大ジオラマ、さまざまな生きものの化石や骨格標本、かつて湖上交通の主役だった丸子船の実物など、迫力ある展示が並んでいます。ディスカバリールームでは子供から大人まで五感を使って楽しめます。ブラックバス料理が味わえるレストラン、オリジナルグッズを数多く揃えたミュージアムショップもあります。	草津市
草津市立水生植物公園みずの森 ※2	三方を豊かな琵琶湖の自然に囲まれた心安らぐ植物園です。見どころは四季を彩る草花が美しい「丘の上の花園」や、水生植物と草花が織りなすハーモニーが幻想的な「花影の池」等。なかでもスイレンのコレクションは日本最多で、他では見られない水生植物が観察できます。7 月下旬には、ハス祭りが行われます。	草津市
水のめぐみ館 アクア琵琶	琵琶湖と淀川の治水と利水について、さまざまな角度から紹介するコミュニケーションスペース。模型やパネル紹介、キャラクター・ビズくんが出題するパソコンゲームで琵琶湖をじっくり学べる。屋外に設けられた「雨体験室」では世界最大の雨が体験できる。	大津市
滋賀県立安土城考古博物館	当館は、特別史跡安土城跡・史跡大中の湖南遺跡・史跡瓢箪山古墳・史跡観音寺城跡からなる歴史公園「近江風土記の丘」の中核施設として平成 4 年に開館しました。第 1 常設展示室では「考古」をテーマに弥生時代、古墳時代の近江にタイムスリップします。第 2 常設展示室では、「中世・戦国時代」をテーマに、安土城をはじめとする城郭の変遷や織田信長の人物像にせまります。	近江八幡市

出典：文献リスト No. 7-10

マイアミランド：2015 年(平成 27 年)8 月 11 日現在

鳥丸半島：2017 年(平成 29 年)9 月 6 日現在

新旭水鳥観察センター：2015 年(平成 27 年)7 月 9 日現在

琵琶湖水鳥・湿地センター：2015 年(平成 27 年)7 月 22 日現在

浮御堂：2015 年(平成 27 年)7 月 3 日現在

竹生島：2015 年(平成 27 年)8 月 20 日現在

琵琶湖博物館：2018 年(平成 30 年)1 月 11 日現在

彦根城：2017 年(平成 29 年)3 月 13 日現在

水のめぐみ館アクア琵琶：2016 年(平成 28 年)6 月 30 日現在

滋賀県安土城考古学博物館：2015 年(平成 27 年)7 月 15 日現在

※1 白鬚神社大鳥居：「高島市観光情報」(2018 年(平成 30 年)5 月現在)、高島市 HP

※2 草津市立水生植物公園みずの森：草津まるごとガイド(2018 年(平成 30 年)5 月現在)、草津市観光物産協会 HP



マイアミランド



烏丸半島



高島市新旭水鳥観察センター



琵琶湖水鳥・湿地センター



浮御堂



白鬚神社大鳥居



竹生島



彦根城

図 7.2.2-8(1) 琵琶湖周辺の観光名所等

文献リスト No. 7-22



滋賀県立琵琶湖博物館



草津市立水生植物公園みずの森



水のみぐみ館アクア琵琶



滋賀県立安土城考古博物館

図 7.2.2-8(2) 琵琶湖周辺の観光名所等

文献リスト No. 7-22

### 7.3 事業と地域社会情勢の変遷

#### 7.3.1 琵琶湖と地域社会の変遷

琵琶湖と地域社会の変遷について表 7.3.1-1 に示す。

表 7.3.1-1 琵琶湖流域社会の歴史の変遷

年代	元号	西暦	日本の主なできごと	琵琶湖流域社会の変遷	
明治	明治	1	明治維新	大津県がおかれる	
		7		鳥居川量水標設置	
		11		大戸川流域直轄砂防事業はじまる	
		23		琵琶湖第一疏水、インクライン完成	
		26		彦根測候所開設	
		29		旧河川法成立	
		38		日露戦争終	
		45		1912	淀川河川法できる。県下大洪水 (+3.73m) 南郷洗ぜき完成 (延長 100 間、工事費約 25 万円) 琵琶湖第二疏水工事完成
大正	大正	2	第一次世界大戦始まる	宇治川発電所完成	
		3		京大、大津臨湖実験開設	
		8		伊吹山観測所気象観測開始	
		14		大津柳ヶ崎水泳場、県下初の公衆水泳場とし開設	
昭和	昭和	15	太平洋戦争勃発	瀬田町で琵琶湖からの逆水かんがい成功	
		16		1941	
		19		1944	
		25		1950	県営琵琶湖干拓地決定 (松原、曾根沼等の内湖)
		33		1958	琵琶湖国定公園指定 (日本では最初の国定公園)
		36		1964	比叡山ドライブウェイ開通
		39		1964	瀬田川洗ぜき完成
					琵琶湖大橋、天ヶ瀬ダムできる。
		41		1966	大中ノ湖南遺路本格的調査
		44		1969	南郷水産センターできる。大中ノ湖干拓ほぼ完成
					三上、田上、信楽を県立自然公園に指定。
					県公害防止条例できる
		45		1970	水質汚濁防止法成立
		47		1972	琵琶湖総合開発特別措置法成立
		48		1973	
49	1974				
52	1977				
54	1979				
57	1982	琵琶湖総合開発特別措置法の一部改正法が成立			
59	1984	湖沼水質保全特別措置法成立			
平成	平成	4	阪神・淡路大震災	琵琶湖開発 管理開始	
		5		琵琶湖、ラムサール条約登録湿地に認定	
		6		北湖に初のアオコ発生、琵琶湖大濁水 (-1.23m、9/15)	
		7		1995	
		8		1996	
		9		1997	滋賀県生活排水対策の推進に関する条例公布 滋賀県環境基本条例の施行 琵琶湖総合開発事業終結
		12		2000	
		13		2001	滋賀県「マザーレイク計画」を策定
		15		2003	第9回世界湖沼会議開催
		16		2004	第3回世界水フォーラム開催
		17		2005	
		23		2011	「琵琶湖淀川流域圏の再生計画」策定
		24		2012	「マザーレイク 21 計画 (第2期)」改訂
27	2015	「第6期琵琶湖に係る湖沼水質保全計画」策定			
29	2017	琵琶湖の保全及び再生に関する法律 制定 滋賀県「琵琶湖保全再生施策に関する計画 (琵琶湖保全再生計画)」策定			

文献リスト No. 7-23 に一部加筆

### 7.3.2 近年の動向

#### (1) マザーレイク 21 計画

マザーレイク 21 計画（琵琶湖総合保全整備計画）は、健全な琵琶湖を次世代に引き継ぐため、県民総ぐるみによる琵琶湖総合保全の指針として、国の関係する旧 6 省庁（国土庁（現、国土交通省）、環境庁（現、環境省）、厚生省（現、厚生労働省）、農林水産省、林野庁、建設省（現、国土交通省））による琵琶湖の総合的な保全のための計画調査を踏まえて、2000 年（平成 12 年）3 月に滋賀県が策定した。

その後、2010 年（平成 22 年）度までの第 1 期計画期間の評価を踏まえて第 2 期計画期間の目標を設定し、2011 年（平成 23 年）10 月に「マザーレイク 21 計画」＜第 2 期改訂版＞を滋賀県が策定した。

マザーレイク 21 計画の理念

《基本理念》琵琶湖と人との共生

琵琶湖を健全な姿で次世代に継承します。

《基本方針》① 共感 人々と地域との幅広い共感

② 共存 保全と活力のある暮らしの共存

③ 共有 後代の人々との琵琶湖の共有

《全县をあげた取組－協働－》

県民、事業者の主体的な取組を基本に、各主体が積極的に取り組み、これを支援するため、県と市町は連携を図ることとしている。

また、河川流域単位に、県民、事業者、市町、県等の各主体が一体となって取り組むこととしている。

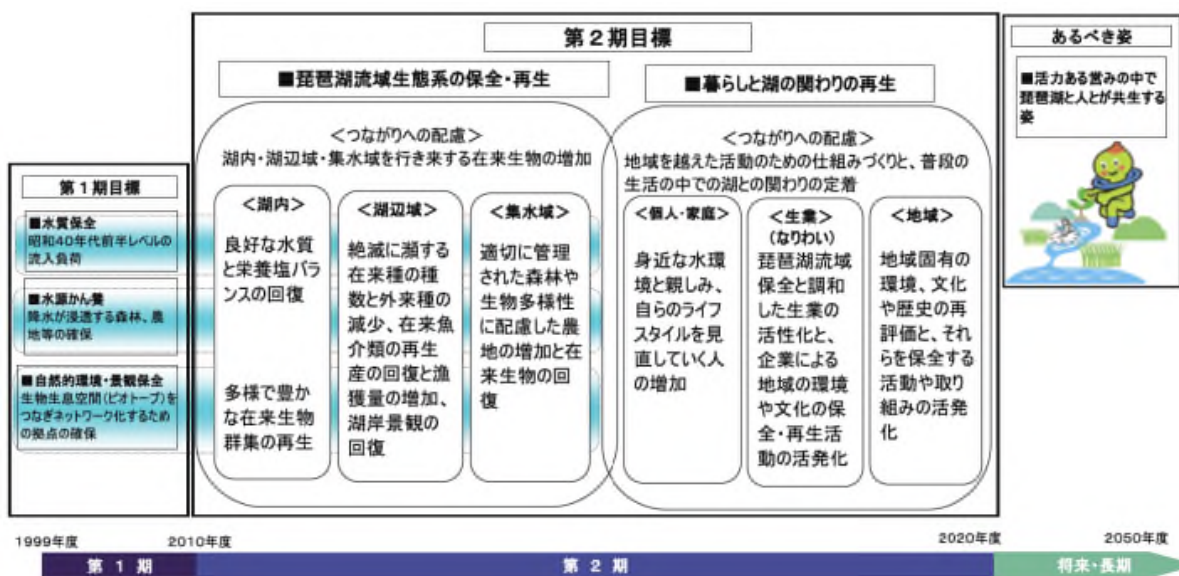


図 7.3.2-1 計画の目標及び対策と長期ビジョン（マザーレイク 21 計画）

文献リスト No. 7-24



## (2) 水辺エコトーンマスタープラン

2004年（平成16年）3月に、マザーレイク21計画の基本的方向の柱である自然的環境・景観保全の取り組みの一環として、湖辺域ビオトープの保全・再生に向けて『水辺エコトーンマスタープラン』を滋賀県が策定した。

水辺エコトーンマスタープランに基づき、湖辺域の水域移行帯（エコトーン）の保全再生（Ex:ヨシ群落保全計画）を進め、琵琶湖固有の生態系を保全し、水産資源確保の観点から外来魚対策にも取り組んでいる。

## (3) 琵琶湖・淀川流域圏の再生

### 1) 都市再生のプロジェクト

2003(平成15)年11月28日、第6次都市再生プロジェクト「琵琶湖・淀川流域圏の再生」の実現を図るため、関係省庁及び地方公共団体等が、流域全体での一体的な取り組み体制を構築し、再生計画を策定した。「水でつなぐ“人・自然・文化”」を基本コンセプトに流域圏の関係機関が連携し、「歴史・文化を活かし自然と共生する流域圏・都市圏の再生」の実現を図ることとしている。

本計画の計画期間は、概ね今後5～10年間での具体化を目途とするが、より長期的（概ね20～30年間）な見通しを踏まえながら取り組むこととなっている。

### 2) 琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会

琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会は、琵琶湖・淀川流域圏の再生協議会において、策定された「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」（以下「再生計画」という。）について、統合的流域管理の視点に立ち、各分野にまたがり地域を超えて各行政機関が協議・調整を行うとともに、再生プログラムの達成度・効果等の評価を行い、再生計画の具体的な推進を図ることを目的に設置された。

琵琶湖・淀川流域圏再生協議会は、平成28年度より「協議会」「連絡調整会議」「流域企画ワーキング」の3つの構成となっている。

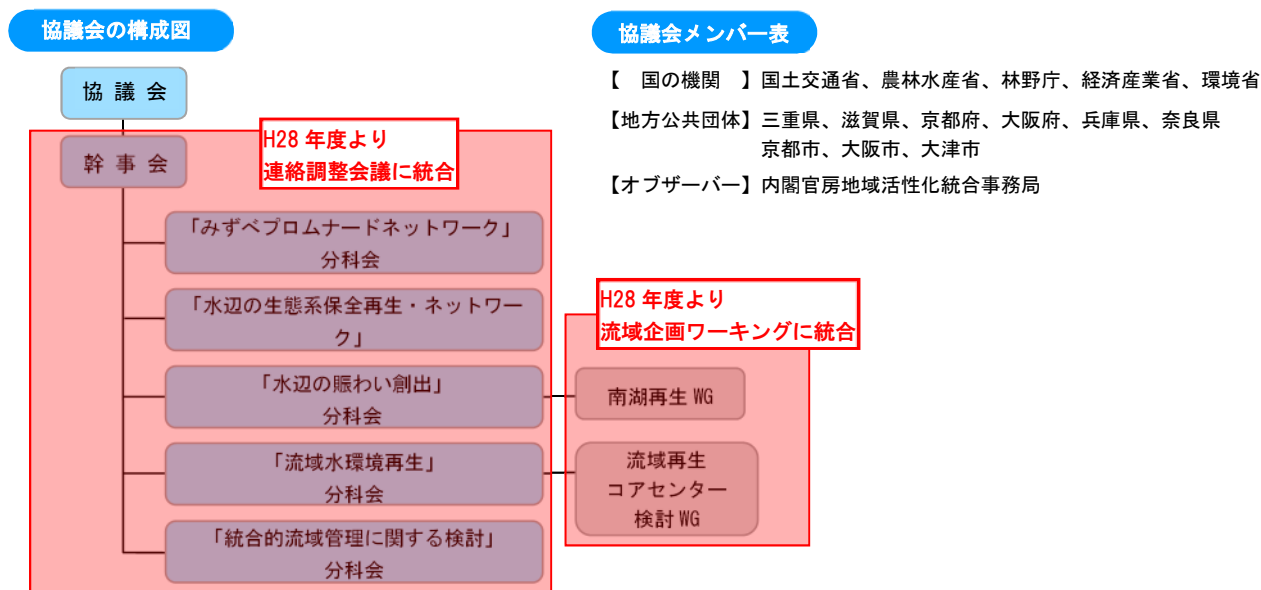


図 7.3.2-2 琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会の仕組み

### 3) 琵琶湖・淀川流域圏の再生の推進

「琵琶湖・淀川流域圏の再生計画」は、琵琶湖・淀川流域圏を健全な姿で次世代に継承するため、「水でつなぐ“人・自然・文化”」を基本コンセプトに、流域圏のあらゆる関係機関が連携して本計画を推進し、「歴史・文化を活かし自然と共生する流域圏・都市圏の再生」の実現を目指すこととしている。

琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会では、5つの再生プログラムを構築し、達成度、効果等の評価を年度ごとに行っている。

#### □ みずべプロムナードネットワーク

琵琶湖・淀川流域圏の水辺を、舟運・サイクリング・ウォーキング等でゆったりと味わい・楽しみ・学びながら、周遊できる水辺のネットワークを構築する。

#### □ 水辺の生態系保全再生・ネットワーク

淡水生物の宝庫である琵琶湖・淀川流域圏の多様な生態系を保全再生するため、希少種等の在来種の保全を視野に入れ、それらを取り巻く生物の生息・生育環境を保全再生する。

#### □ 水辺の賑わい創出

琵琶湖・淀川流域圏において、まちに潤いをもたらす「せせらぎの創出」、水辺にふれあい、楽しむことができる「親水空間の再生・創出」を図り、人々が集い、活気に満ちた水辺を創出する。

#### □ 流域水環境再生

琵琶湖・淀川流域圏の水環境に関する様々な課題に対して、森林地域や農村地域だけではなく、流域の恵みを享受する都市部が一体となり、豊かな水を育む森林・農用地の保全及び再生や、河川や湖沼のさらなる水質改善、安定した水量の確保を図り、健全な水環境を実現する。

#### □ 流域連携

琵琶湖・淀川流域圏の各種課題に対し、地域間・主体間・分野間で連携した一体的な取り組みを継続性のあるものとするため、行政間の連携を推進する組織、市民・NPO・自治体等のネットワークの構築、また、これらを連携する組織を設置する。

### 4) 流域企画ワーキング

(平成28年度より他のワーキンググループと統合(旧名称「南湖再生WG」))

南湖を再生させるに当たっては、浚渫等による固定環境整備、水草異常繁茂対策、点源・面源からの流入負荷対策等様々な取り組みが必要である。各課題に関し、各機関が取り組んでいる調査・研究・対策について情報共有・交換し、これらが有効かつ効果的に実施されるよう連携及び調整を行う。現在実施されている主な取り組みは次のとおりである。

①産卵環境に配慮した瀬田川洗堰操作

②ヨシ群落保全・再生事業

③水草異常繁茂対策

④魚のゆりかご水田整備事業

(その他、多数あり)

#### (4) 淀川水系流域委員会

1997年（平成9年）の河川法改正に伴い、これまでの「治水」「利水」に加えて「河川環境の整備と保全」が目的に追加された。また、これまでの「工事実施基本計画」に代わって、長期的な河川整備の基本となるべき方針を示す「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の内容を示す「河川整備計画」が策定されることになり、後者については、地方公共団体の長、地域住民等の意見を反映する手続きが導入された。

「淀川水系流域委員会」は、淀川水系の「河川整備計画」策定にあたり、学識経験を有する者の意見を聴く場として、2001年（平成13年）2月1日に近畿地方整備局によって設置された。その後、多くの議論がなされ、2009年（平成21年）3月31日に、「淀川水系整備計画」が策定された。

淀川水系流域委員会には琵琶湖部会が設置され、水陸移行帯の回復について議論がされた。これを受けて国土交通省は、琵琶湖及び周辺河川環境に関する専門家グループ制度により「水陸移行帯WG」を設置し、瀬田川洗堰の試行操作について意見をいただいている。

### 7.3.3 地域連携のための水資源機構の取り組み

#### (1) 琵琶湖沿岸の治水対策

琵琶湖沿岸の治水対策として、内水排除操作は重要であるが、管理開始以降 20 年以上経過し、地域との窓口である県事務所や市関係者すら、農地が一時的に浸水することを理解していない場合もあり、琵琶湖沿岸の治水対策及び内水排除操作の計画について継続して確実に伝えていくことが重要である。

水資源機構では、内水排除操作における操作の状況等を機構から直接伝える県土木事務所及び市関係者に対し、毎年出水期前に各地区（湖南地区、東近江地区、湖北地区、湖西地区）に「施設管理連絡会」を開催し、琵琶湖開発事業の内容、水機構の管理施設、施設管理の業務内容、内水排除操作の方法と伝達手段について説明するとともに、排水機場のポンプ運転があっても浸水初期には農地等が一時的に浸水することを伝えている。平成 24 年度からは県土木事務所だけでなく、農業振興事務所の方にも参加を得ている。

また、「施設管理連絡会」とは別に「排水機場説明会」を開催し、土地改良区や地元自治会役員に対して、ほぼ同様の説明を行うとともにポンプの試運転状況も見学して頂き、内水排除操作の理解を深めて頂いている。

#### (2) 琵琶湖及びその流域で実施されたイベント

琵琶湖開発事業と地域社会との関わりとして、琵琶湖及びその流域で実施された近年 5 年の主要なイベントの概要を表 7.3.3-1 に示す。また、いくつかのイベントの実施風景を図 7.3.3-1、図 7.3.3-2 に示す。

表 7.3.3-1(1) 近年5カ年における主要なイベント一覧

開催日	イベント	概要	
2013 (H25)	5月9日 5月13日 5月14日 5月17日	湖南地区施設管理連絡会 湖西地区施設管理連絡会 湖北・湖東地区施設管理連絡会 東近江地区施設管理連絡会	琵琶湖開発施設の操作及び維持管理全般について、関係機関との連絡を密にし、円滑な管理の実施に資することを目的として、琵琶湖開発施設管理連絡会を開催した。
	5月25日	新旭浜園地木道補修	地域NPOの行事に機構用地を作業基地として提供するとともに、機構職員も参加した。
	6月2日	自然観察会（太田田んぼ池）	機構が構成員となっている琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会の主催で、一般参加者を募り自然観察会を実施した。
	6月22日	ハマゴウ保全	ハマゴウの群落がある佐波江地区において、地元自治会やハマゴウを研究している京都大学の関係者及び水資源機構職員が、保全のための柵の補修や周辺の草刈りを実施した（共催）。
	6月23日	アサザ保全	アサザ（環境省準絶滅危惧種）の保全を行うことを目的とし、農業用水路に繁茂している外来種の駆除除去を行った。参加者は、地元の自治会の方々及び魚のゆりかご水田協議会の方々23名、伊庭の里湖づくりの方々3名、そして水資源機構から5名の合わせて31名が参加した。
	6月24日 6月25日 6月28日 7月13日	磯・米原・早崎下八木排水機場説明会 稲枝排水機場説明会 大同川排水機場説明会 針江排水機場説明会	排水機場の効果的な運用及び出水時における地元自治会、農地関係者等との連携強化を目的に、内水排除全般、排水機場の概要等について内水排除流域地区毎に説明会を開催した。
	7月1日	「びわ湖の日」清掃活動	「平成8年7月に施行された滋賀県環境基本条例では、県民および事業者の間に広く環境の保全についての理解と認識を深めるとともに、環境の保全に関する活動への参加意欲を高めるため、7月1日を「びわ湖の日」と定めている。本年も「びわ湖の日」に併せて滋賀県内全域で清掃活動が実施された。琵琶湖開発総合管理所からも職員が参加し、各地域において湖岸沿いの清掃活動を実施した。
	7月8日	ヨシ苗づくり	
	7月9日	磯排水機場流入水路清掃	悪臭発生防止と水流の確保のために、入江干拓土地改良区とともに、磯川樋門下流の水草除去作業を実施した。
	7月30日 10月18日	出前講座	小学生を対象に、身近にある水の管理や琵琶湖の環境、環境保全の取り組みをテーマに出前講座を実施した。 7月30日： 10月18日：滋賀県彦根市市立旭森小学校5年生114名（うち、先生5名）
	9月14日	家棟川ビオトープ観察会	NPO法人家棟川流域観光船、滋賀自然環境研究会、国土交通省琵琶湖河川事務所、野洲市、滋賀県の主催（協力：水資源機構）による家棟川ビオトープ自然観察会が開催された。このイベントは「人と自然との新たな関係の構築」を目的として、地域住民、専門家および行政が協働で実施するもので、公募で集まった一般の方は51名であった。
	10月29日 11月14-15日	上下流交流会（利水者事業説明、施設案内）	伊丹市工水事業者に事業説明、施設案内を行った。（10/29） 大阪広域水道企業団等の利水者事業説明、施設案内を行った。（11/14-15）

文献リスト No. 7-25

表 7.3.3-1(2) 近年5カ年における主要なイベント一覧

	開催日	イベント	概要
2013 (H25)	10月29日 10月31、 11月6日	お魚里帰り環境学習会（新 浜ビオトープ）	新浜ビオトープにおいて、産卵・成育した在来種を琵琶湖に還す取り組みと外来種の駆除を職員で行った。「お魚里帰り大作戦」は荒天のため中止した。
	11月2日	あやめ浜ヨシ植え・松林保 全	地元NPO、野洲市、中主漁業協同組合、地元自治会と水資源機構が連携し、松林整備（枝打ち）とヨシ植えイベントを開催した（共催）。このイベントは、琵琶湖岸のヨシ群落の再生及び前浜の安定化を図るとともに、あやめ浜の美しい松林の保全を目的としている。
	11月3日	針江大川地区藻刈り清掃活 動	
	11月3日	来て見て体験 in 村野浄水 場	大阪広域水道企業団のイベントに参加し、事業説明などを行った。
	11月16日	琵琶湖・水辺の環境展	イオンモール草津において、「琵琶湖・水辺の環境展」を開催した。「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」が主催し、実施している（共催）。
	11月26日	県下一斉清掃運動	
	12月1日	ヨシ刈り（針江浜）	
	随時	刈草堆肥配布	湖岸堤の除草に伴う刈草の有効活用を目的とした堆肥化を実施した。できあがった堆肥は希望者に持ち帰っていただいた。

文献リスト No. 7-25

表 7.3.3-1(3) 近年5カ年における主要なイベント一覧

	開催日	イベント	概要
2014 (H26)	5月14日 5月15日 5月19日 5月20日	東近江地区施設管理連絡会 湖西地区施設管理連絡会 湖北・湖東地区施設管理連絡会 湖南地区施設管理連絡会	琵琶湖開発施設の操作及び維持管理全般について、関係機関との連絡を密にし、円滑な管理の実施に資することを目的として、琵琶湖開発施設管理連絡会を開催した。
	6月8日	自然観察会（太田田んぼ池）	当管理所が構成員となっている琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会の主催で、一般参加者を募り自然観察会を実施した。
	6月17日 6月19日 6月20日 6月23日	堀川排水機場説明会 磯・米原・早崎下八木排水機場説明会 稲枝排水機場説明会 大同川排水機場説明会	排水機場の効果的な運用及び出水時における地元自治会、農地関係者等との連携強化を目的に、内水排除全般、排水機場の概要等について内水排除流域地区毎に説明会を開催した。
	6月21日	ハマゴウ保全	当管理所が管理する前浜に生育するハマゴウ群落を保全するため、地元自治会（近江八幡市佐波江区）や学識者と生育箇所周辺の雑草の刈り取り等を行い、生育環境を整備した。
	6月22日	アサザ保全	当管理所が管理する単独堤・堤脚水路周辺に生育するアサザを保全するため、地元自治会（東近江市栗見出在家区）と外来植物の駆除を行った。
	6月22日	お魚救出大作戦（太田田んぼ池）	
	7月1日	「びわ湖の日」清掃活動	「滋賀県ごみ散乱防止条例」による「環境美化の日」に滋賀県などとともに清掃活動を行った。
	9月7日、 11月9日	家棟川ビオトープ観察会	当管理所が構成員となっている「滋賀県自然環境研究会」の主催で、一般参加者を募り自然観察会を実施した。
	10月2日	出前講座	小学生を対象に、身近にある水の管理や琵琶湖の環境、環境保全の取り組みをテーマに出前講座を実施した。大阪府枚方市市立船橋小学校5年生108名(内、先生3名)
	10月17日	出前講座	旭森小学校で出前講座を実施し、琵琶湖の水質についての講義やバックテストを用いた実験を行った。
	10月26日	お魚里帰り大作戦（新浜ビオトープ）	草津市の新浜ビオトープにおいて、ビオトープ内に生息している在来魚を琵琶湖へ放流するイベント「お魚里帰り大作戦」開催した。併せて、外来種の駆除を行った。
	10月31日	来て見て体験 in 村野浄水場	村野浄水場にてパネル展示を行い、当管理所の取組等を紹介した。
	11月5日、 11月6日	お魚里帰り環境学習会（新浜ビオトープ）	新浜ビオトープにおいて、産卵・成育した在来種を琵琶湖に還す取り組みと外来種の駆除を職員で行った。
	11月8日	あやめ浜ヨシ植え・松林保全	地元NPO、野洲市、中主漁業協同組合、民間企業と水資源機構が連携し、松林整備（枝打ち）とヨシ植えイベントを開催した（共催）。
	11月12日	「琵琶湖開発事業と文化財」展	琵琶湖開発事業に関するパネル展示を行い、当管理所の取組等を紹介した。
	11月22日	琵琶湖・水辺の環境展	関連団体からなる「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」が主催し、イオンモール草津のホールでパネル、在来魚の展示、クイズラリー等を行った。
	12月7日	ヨシ刈り（針江浜）	
	12月16日	環境学習会	講師を招いて「琵琶湖水源の森」「琵琶湖のヨシ原と水草」と題した内容で行った。
	随時	刈草堆肥配布	湖岸堤の除草に伴う刈草の有効活用を目的とした堆肥化を実施した。できあがった堆肥は希望者に配布した。

文献リスト No. 7-26

表 7.3.3-1(4) 近年5カ年における主要なイベント一覧

	開催日	イベント	概要
2015 (H27)	5月18日 5月19日 5月22日 5月27日	湖南地区施設管理連絡会 東近江地区施設管理連絡会 湖西地区施設管理連絡会 湖北・湖東地区施設管理連絡会	琵琶湖開発施設の操作及び維持管理全般について、関係機関との連絡を密にし、円滑な管理の実施に資することを目的として、琵琶湖開発施設管理連絡会を開催した。
	6月7日	自然観察会(太田田んぼ池)	高島市のみずすまし水田及び太田の田んぼ池において自然観察会を開催した。「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」が主催し、実施している(共催)。
	6月16日 11月17日	出前講座	小学生を対象に、身近にある水の管理や琵琶湖の環境、環境保全の取り組みをテーマに出前講座を実施した。 6月16日:滋賀県大津市市立膳所小学校5年生約120名 11月17日:滋賀県彦根市市立旭森小学校5年生95名
	6月18日 6月23日 6月23日 6月30日	磯・米原・早崎下八木排水機 場説明会 大同川排水機場説明会 稲枝排水機場説明会 針江排水機場説明会	排水機場の効果的な運用及び出水時における地元自治会、農地関係者等との連携強化を目的に、内水排除全般、排水機場の概要等について内水排除流域地区毎に説明会を開催した。
	6月21日	アサザ保全	東近江市栗見出在家自治会主催のアサザ(環境省準絶滅危惧種)の保全活動に参加した。
	6月24日 7月15日	アレチウリ駆除	
	6月27日	ハマゴウ保全	ハマゴウの群落がある佐波江地区において、地元自治会やハマゴウを研究している京都大学の関係者及び水資源機構職員が、保全のための柵の補修や周辺の草刈りを実施した(共催)。
	9月5日 11月8日	家棟川ビオトープ観察会	NPO法人家棟川流域観光船、滋賀自然環境研究会、国土交通省琵琶湖河川事務所、野洲市、滋賀県の主催(協力:水資源機構)による家棟川ビオトープ自然観察会が開催された
	10月25日	お魚里帰り大作戦(新浜ビ オトープ)	草津市の新浜ビオトープにおいて、ビオトープ内に生息している在来魚を琵琶湖へ放流するイベント「お魚里帰り大作戦」を開催した。併せて、外来種の駆除を行った。
	11月5日 12月9日	オオバナミズキンバイ駆除	
	11月7日	あやめ浜ヨシ植え・松林保 全	地元NPO、野洲市、中主漁業協同組合、民間企業と水資源機構が連携し、松林整備(枝打ち)とヨシ植えイベントを開催した(共催)。
	11月23日	琵琶湖・水辺の環境展	イオンモール草津において、「琵琶湖・水辺の環境展」を開催した。「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」が主催し、実施している(共催)。
	11月26日	県下一斉清掃運動	環境美化運動の一環として県下一斉清掃運動が11月26日開催され、琵琶湖開発総合管理所からも職員が参加し、各地域において湖岸沿いの清掃活動を実施した。
	12月6日	ヨシ刈り(針江浜)	
	随時	刈草堆肥配布	湖岸堤の除草に伴う刈草の有効活用を目的とした堆肥化を実施した。できあがった堆肥は希望者に配布した。

文献リスト No. 7-27



表 7.3.3-1(5) 近年5カ年における主要なイベント一覧

	開催日	イベント	概要
2016 (H28)	1月29日	草津市こども環境会議	
	3月3日	環境学習会	
	5月20日 5月23日 5月26日 5月27日	東近江地区施設管理連絡会 湖北・湖東地区施設管理連絡会 湖南地区施設管理連絡会 湖西地区施設管理連絡会	琵琶湖開発施設の操作及び維持管理全般について、関係機関との連絡を密にし、円滑な管理の実施に資することを目的として、琵琶湖開発施設管理連絡会を開催した。
	5月27日	オオバナミズキンバイ駆除	
	6月12日	自然観察会(太田田んぼ池)	高島市のみずすまし水田及び太田の田んぼ池において自然観察会を開催した。「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」が主催し、実施している(共催)。
	6月19日	アサザ保全	東近江市栗見出在家自治会主催のアサザ(環境省準絶滅危惧種)の保全活動に参加した。
	6月23日 6月24日 6月27日 6月28日 6月30日	金丸川排水機場説明会 大同川排水機場説明会 米原排水機場説明会 稲枝排水機場説明会 早崎下八木排水機場説明会	排水機場の効果的な運用及び出水時における地元自治会、農地関係者等との連携強化を目的に、内水排除全般、排水機場の概要等について内水排除流域地区毎に説明会を開催した。
	6月26日	ハマゴウ保全	ハマゴウの群落がある佐波江地区において、地元自治会やハマゴウを研究している京都大学の関係者及び水資源機構職員が、保全のための柵の補修や周辺の草刈りを実施した(共催)。
	6月29日、 7月1日 11月17日	出前講座	小学生を対象に、身近にある水の管理や琵琶湖の環境、環境保全の取り組みをテーマに出前講座を実施した。滋賀県大津市市立膳所小学校5年生約120名 6月29日滋賀県大津市市立膳所小学校5年生約120名 7月1日滋賀県甲賀市市立多羅尾小学校(大戸川流域)9名(全校生徒) 11月17日滋賀県彦根市市立旭森小学校5年生95名
	7月1日	「びわ湖の日」清掃活動	「びわ湖の日」に合わせて滋賀県内全域で清掃活動に参加した。
	8月11日、11 月5日	家棟川ビオトープ観察会	NPO法人家棟川流域観光船、滋賀自然環境研究会、国土交通省琵琶湖河川事務所、野洲市、滋賀県の主催(協力:水資源機構)による家棟川ビオトープ自然観察会が開催された。
	10月16日	お魚里帰り大作戦(新浜ビオトープ)	草津市の新浜ビオトープにおいて、ビオトープ内に生息している在来魚を琵琶湖へ放流するイベント「お魚里帰り大作戦」を開催した。併せて、外来種の駆除を行った。
	11月6日	琵琶湖・水辺の環境展	イオンモール草津において、「琵琶湖・水辺の環境展」を開催した。「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」が主催し、実施している(共催)。
	11月12日	あやめ浜ヨシ植え・松林保全	地元NPO、野洲市、中主漁業協同組合、民間企業と水資源機構が連携し、松林整備(枝打ち等)とヨシ植えイベントを開催した(共催)。
	11月25日	県下一斉清掃運動	環境美化運動の一環として県下一斉清掃運動が開催され、琵琶湖開発総合管理所からも職員が参加し、各地域において湖岸沿いの清掃活動を実施した。
	12月4日	オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウ駆除(高島市)	
	随時	刈草堆肥配布	湖岸堤の除草に伴う刈草の有効活用を目的とした堆肥化を実施した。できあがった堆肥は希望者に配布した。

文献リスト No. 7-28

表 7.3.3-1(6) 近年5カ年における主要なイベント一覧

開催日	イベント	概要	
2017 (H29)	1月27日	草津市こども環境会議	草津市が主催の「こども環境会議」において、当管理所が構成員となっている「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」のパネル展示を行い、当管理所の取組等を紹介した。
	5月19日 5月22日 5月24日 5月26日	湖西地区施設管理連絡会 湖南地区施設管理連絡会 東近江地区施設管理連絡会 湖北・湖東地区施設管理連絡会	琵琶湖開発施設の操作及び維持管理全般について、関係機関との連絡を密にし、円滑な管理の実施に資することを目的として、琵琶湖開発施設管理連絡会を開催した。
	6月4日	自然観察会（太田田んぼ池）	当管理所が構成員となっている「琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会」の主催で、一般参加者を募り自然観察会を実施した。
	6月17日	アサザ保全	当管理所が管理する単独堤・堤脚水路周辺に生育するアサザを保全するため、地元自治会（東近江市栗見出在家区）と外来植物の駆除を行った。
	6月24日	ハマゴウ保全	当管理所が管理する前浜に生育するハマゴウ群落を保全するため、地元自治会（近江八幡市佐波江区）や学識者と生育箇所周辺の雑草の刈り取り等を行い、生育環境を整備した。
	6月26日 6月27日 6月28日 6月28日 6月29日 7月4日	大同川排水機場説明会 稲枝排水機場説明会 磯排水機場説明会 米原排水機場説明会 早崎下八木排水機場説明会 入道川排水機場説明会	排水機場の効果的な運用及び出水時における地元自治会、農地関係者等との連携強化を目的に、内水排除全般、排水機場の概要等について内水排除流域地区毎に説明会を開催した。
	6月29日 9月6日 9月26日	環境学習会	当機構が管理する新浜ビオトープにおいて、職員によるオオバナミズキンバイ（特定外来生物）の駆除活動を行った。
	6月30日 7月6日 7月7日	「びわ湖の日」清掃活動	滋賀県が主催する「滋賀県ごみの散乱防止条例」の環境美化の日の取組として、事業用地保全のため湖岸のゴミ拾い等を行った。
	7月15日	オオバナミズキンバイの駆除と草木染め体験	南湖から北湖に広がりつつあるオオバナミズキンバイ等外来水草の駆除および草木染めを行い、地元との交流を図った。
	8月19日	下物ビオトープ観察会	滋賀県が開催した下物ビオトープ観察会に参加し、ビオトープ池および堤脚水路で採取した生き物の観察会を行った。
	9月3日、 11月19日	家棟川ビオトープ観察会	NPO法人家棟川流域観光船、滋賀自然環境研究会、野洲市、滋賀県の主催（協力：水資源機構）による家棟川ビオトープ自然観察会が開催された。
	11月10日	お魚里帰り環境学習会（新浜ビオトープ）	新浜ビオトープにおいて、産卵・成育した在来種を琵琶湖に還す取り組みと外来種の駆除を職員で行った。「お魚里帰り大作戦」は荒天のため中止した。
	11月11日	あやめ浜ヨシ植え・松林保全	当管理所の管理する松林の保全をアピールするため、野洲市NPO主催のヨシ植え・松林保全活動に参加した。
	11月19日	草津市地球冷やしたい推進フェア	草津市が広報イベントにおいて、ブース出展やクイズの出題を行い、機構における地球温暖化対策の取組の紹介と併せて、当管理所の事業PRを行った。
	12月3日	ヨシ刈りと外来水生植物の駆除	高島市等が主催するヨシの保全・外来魚駆除活動に参加し、当管理所が管理する樋門周辺での環境保全活動を実施した。
	12月3日	ヨシ刈り（針江浜）	高島市等が主催するヨシの保全・外来魚駆除活動に参加し、当管理所が管理する樋門周辺での環境保全活動を実施した。
	随時	刈草堆肥配布	湖岸堤の除草に伴う刈草の有効活用を目的とした堆肥化を実施した。できあがった堆肥は希望者に配布した。

文献リスト No. 7-29



平成 25 年 6 月 2 日  
自然観察会



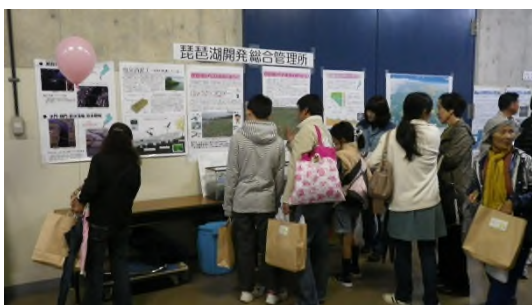
平成 25 年 6 月 22 日  
あやめ浜松林保全活動



平成 25 年 6 月 23 日  
外来種駆除活動



平成 25 年 10 月 18 日  
出前講座



平成 25 年 11 月 3 日  
来て見て体験 in 村野浄水場



平成 25 年 11 月 16 日  
琵琶湖・水辺の環境展

図 7.3.3-1(1) イベント風景 (平成 25 年度)

文献リスト No. 7-25

	
<p>平成 26 年 6 月 8 日 自然観察会</p>	<p>平成 26 年 6 月 21 日 ハマゴウ保全活動</p>
	
<p>平成 26 年 6 月 22 日 アサザ保全活動</p>	<p>平成 26 年 9 月 7 日 家棟川自然観察会</p>
	
<p>平成 26 年 10 月 26 日 お魚里帰り大作戦</p>	<p>平成 26 年 11 月 22 日 琵琶湖・水辺の環境展</p>

図 7.3.3-1(2) イベント風景 (平成 26 年度)

文献リスト No. 7-26

	
<p>平成 27 年 6 月 7 日 自然観察会</p>	<p>平成 27 年 6 月 21 日 アサザ保全活動</p>
	
<p>平成 27 年 6 月 27 日 ハマゴウ保全活動</p>	<p>平成 27 年 10 月 25 日 お魚里帰り大作戦</p>
	
<p>平成 27 年 11 月 17 日 出前講座</p>	<p>平成 27 年 11 月 23 日 琵琶湖・水辺の環境展</p>

図 7.3.3-1(3) イベント風景 (平成 27 年度)

文献リスト No. 7-27

	
<p>平成 28 年 6 月 12 日 自然観察会</p>	<p>平成 28 年 6 月 29 日 出前講座</p>
	
<p>平成 28 年 10 月 16 日 お魚里帰り大作戦</p>	<p>平成 28 年 11 月 6 日 琵琶湖・水辺の環境展</p>
	
<p>平成 28 年 11 月 12 日 ヨシ植栽</p>	<p>平成 29 年 3 月 3 日 オオバナミズキンバイ (特定外来生物) の駆除活動</p>

図 7.3.3-1(4) イベント風景 (平成 28 年度)

文献リスト No. 7-28



平成 29 年 6 月 4 日  
自然観察会



平成 29 年 6 月 17 日  
アサザ保全活動



平成 29 年 6 月 24 日  
ハマゴウ保全活動



平成 29 年 6 月 29 日  
オオバナミズキンバイ（特定外来生物）の駆除活動



平成 29 年 8 月 19 日  
下物ビオトープ観察会



平成 29 年 11 月 19 日  
草津市地球冷やしたい推進フェア

図 7.3.3-1(5) イベント風景（平成 29 年度）

文献リスト No. 7-29



### ■出前講座を開催しています。

地域みなさんに身近にある水の管理や琵琶湖の環境、環境保全の取り組みについて理解していただくために、県内外の小中学校を対象に出前講座を開催しています。

講座内容は、事前に打ち合わせを行い、講義してほしい内容やこれまで学習したことに関連する内容に沿ったものなど、リクエストに応えながら楽しく学べるようクイズを交えて学習を行います。他にもろ過実験を体験していただくなど、工夫して開催しています。

今後も地域みなさんとふれあえる出前講座を通じて、琵琶湖の現状や水の大切さについて理解していただき、交流を深めることで、琵琶湖の環境保全に貢献していきます。よりわかりやすく、楽しめる内容となるよう改善に努め、みなさまのところへお伺いしたいと思っております。



クイズにこたえる子供たち



ろ過実験中

### ■講義画面の見本

講義は主に、パワーポイントを使用します。キャラクター、動きのある画面、アニメーション、動画などを使い、子供たちの興味をひきます。講義リクエストにあわせて構成を決めます。



琵琶湖の水について紹介します。クイズなどで参加性を高めます。

画面を拡大



当管理所における環境への取組みを説明します。魚の写真などを多用します。

画面を拡大

### ■講座内容

- 琵琶湖の環境や生活の水のゆくえなど
- 琵琶湖の水環境の現状と課題についてなど
- 琵琶湖・淀川の水や環境についてなど
- 滋賀のシンボル琵琶湖について知識を深める、びわこクイズなど

図 7.3.3-2 ホームページ上で紹介している出前講座の開催

文献リスト No. 7-30



## 7.4 周辺施設や湖の利用状況

### 7.4.1 水に関わる施設への来訪状況

#### (1) 水のめぐみ館「アクア琵琶」(国土交通省、水資源機構)

水のめぐみ館「アクア琵琶」は、国土交通省と水資源機構が瀬田川洗堰近くに、常設の河川管理施設として共同設置したものである。常時は資料館としての機能を主体として、瀬田川洗堰の歴史を始めとして、琵琶湖の水利用の歴史や総合開発、瀬田川の砂防など琵琶湖と淀川水系について、様々な角度から紹介されている。

図 7.4.1-1 に来館者数の推移を示し、図 7.4.1-2 に月別の来館者数を示した。1992年(平成4年)11月に開館し、1993年(平成5年)から2010年(平成22年)までは、年間に約4万～6万人の入館者があったが、土・日曜日、祝日を休館日としたことにより2011年(平成23年)～2013年(平成25年)は、1万5千人程度に減少しているが、2014年(平成26年)以降は、土・日曜日、祝日を再開館したことにより、約3万5千人程度まで増加している。

季節別では5月、8月を中心として春～夏季に来館者数が多い。

アクア琵琶における展示構成を見ると、敷地内には1990年(平成2年)に大阪で開催された花と緑の博覧会「EXPO'90」で使用された「雨たいけん室」もあり、各降雨強度による降雨を体験することができるようになっている。

なお、平成22年3月より当館に係わる管理運営についての助言、堤案、評価をすることを目的とする外部評価委員会を設置し、検討を行っているところである。

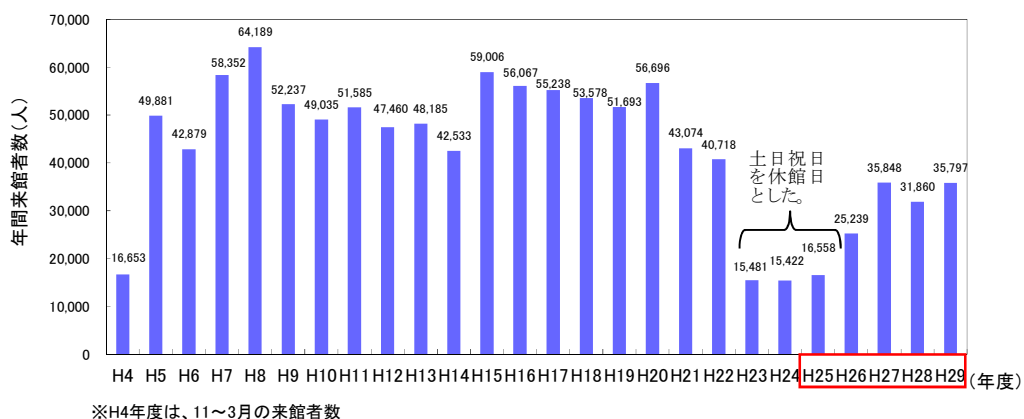


図 7.4.1-1 アクア琵琶への年間来館者数

文献リスト No. 7-31

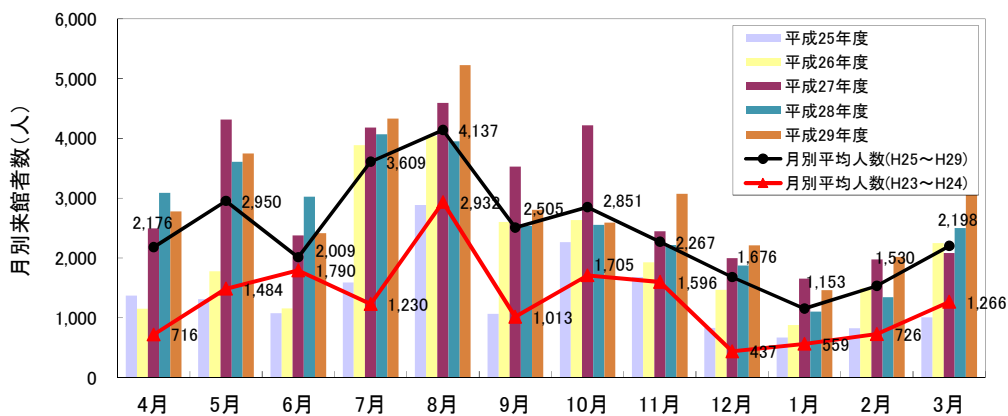


図 7.4.1-2 アクア琵琶への月別来館者数

文献リスト No. 7-31



図 7.4.1-3 アクア琵琶



図 7.4.1-4 アクア琵琶及び周辺施設概要

文献リスト No. 7-32

## (2) 烏丸半島

烏丸半島は琵琶湖開発事業時に諸工事のためのストックヤードなどとして利用した。その後、大規模な跡地整備を行い、滋賀県や草津市等による利活用が図られている。

主な利活用施設は、以下のとおりである。

- ・ 琵琶湖博物館（滋賀県）
- ・ 水生植物公園（草津市）
- ・ UNEP（国連環境計画）国際環境技術センター
- ・ 烏丸記念公園（水資源機構）
- ・ 多目的広場（水資源機構）
- ・ その他駐車場等（滋賀県、草津市）



図 7.4.1-5 烏丸半島全景図

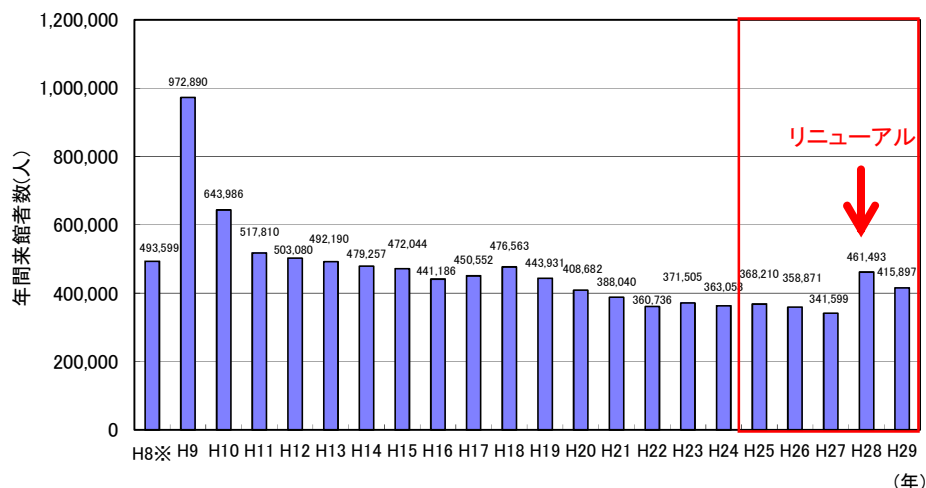
文献リスト No. 7-22

### 1) 琵琶湖博物館（滋賀県）

琵琶湖博物館は、湖と人との関係を過去にさかのぼって研究・調査し、資料を収集・整理し、その成果をもとに県民とともに考え、今後の望ましいありかたを探るための組織として、10年以上にわたるその準備を終え、1996年（平成8年）4月に設置され、同年10月に一般公開された。

これは研究施設であり、文化施設であり、生涯学習施設であって、交流と情報のセンターとしてもまた機能している。2007年（平成19年）5月8日（火）に開館以来、例年、約40～50万人の来場者があり、2017年（平成29年）8月には来場者数が延べ1,000万人を超えた。2009年（平成21年）以降は来館者がやや減少し40万人を下回る年が続いたが、リニューアルした2016年（平成28年）には増加し、2016年（平成28年）、2017年（平成29年）は40万人を超えている。

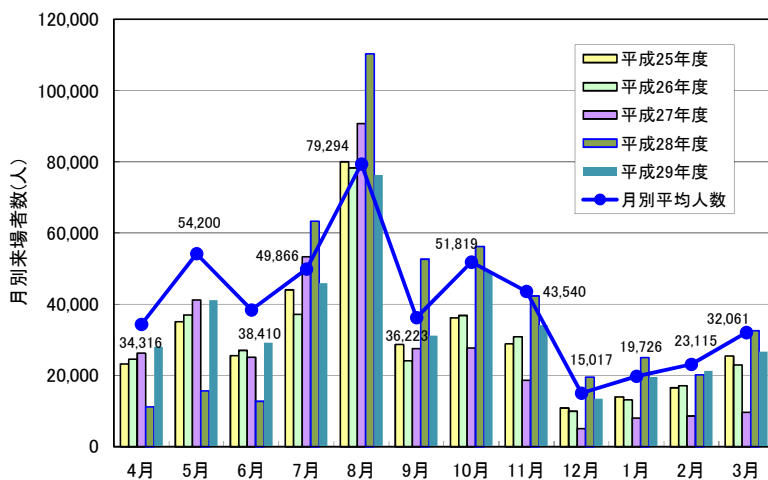
また、水生植物公園みずの森とも徒歩5分の距離と隣接しており、共通券等を発行している。



※平成8年度は、10～3月の来場者数

図 7.4.1-6 琵琶湖博物館への年間来館者数

文献リスト No. 7-33

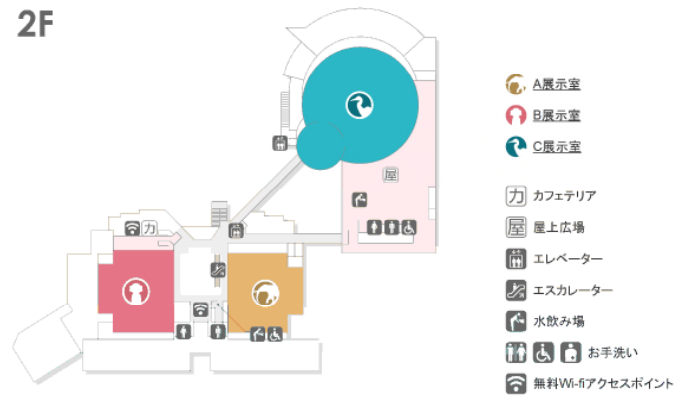


※月別平均人数は、1996年(平成8年)11月から2018年(平成30年)3月までの各月平均値とする。

図 7.4.1-7 琵琶湖博物館への月別来館者数

文献リスト No. 7-33

2F



1F



図 7.4.1-8 琵琶湖博物館の展示案内

□ 施設概要

① 屋内施設

- 1) A 展示室：湖の 400 万年と私たち～琵琶湖の自然と生き立ち～
- 2) B 展示室：湖の 2 万年と私たち～自然と暮らしの歴史～
- 3) C 展示室：湖のいまと私たち～暮らしとつながる自然～
- 4) 水族展示室：湖のいまと私たち：～水の生き物と暮らし～
- 4) ディスカバリールーム：子供と大人と一緒に楽しむ体験と発見の場
- 5) おとなのディスカバリー：大人も楽しめるリアルな知的空間

② 屋外施設

- 1) 樹冠トレイル：森をめぐるトレイル（小道）
- 2) 生活実験工房：自然と関わる暮らしを体験
- 3) 縄文弥生の森：縄文、弥生時代の森を再現
- 4) 太古の森：180 万年前の森を再現

文献リスト No. 7-34

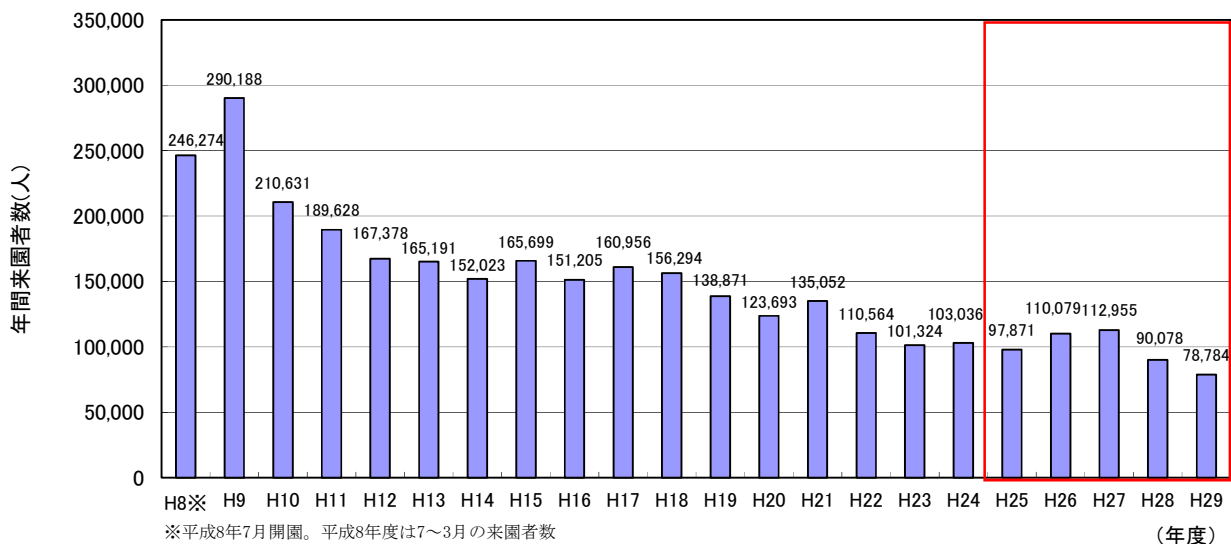
□ 主な開催イベント

- H26 企画展 : 7/19～11/24  
びわ博フェス : 9/6、9/7
- H27 企画展 : 7/18～11/23  
びわ博フェス : 7/4、7/5
- H28 企画展 : 9/17～1/31  
びわ博フェス : 11/12、11/13
- H29 企画展 : 7/15～11/19  
びわ博フェス : 7/8、7/9

文献リスト No. 7-33

## 2) 水生植物公園みずの森（草津市）

1996年(平成8年)7月開業の三方を豊かな琵琶湖の自然に囲まれた心安らぐ植物園で、見どころは四季を彩る草花が美しい「丘の上の花園」や、水生植物と草花が織りなすハーモニーが幻想的な「花影の池」等がある。なかでもスイレンのコレクションは日本最多で、他では見られない水生植物が観察できる。7月下旬には、ハス祭りが行われます。2006年度(平成18年度)までは、例年15万人前後の来園者数となっていたが、近年減少傾向にあり、2017年度(平成29年度)は約8万人となっている。



※1996年(平成8年)度は、7～3月の来園者数

図 7.4.1-9 水生植物公園みずの森への年間来園者数

文献リスト No. 7-35



図 7.4.1-10 水生植物公園みずの森施設案内

文献リスト No. 7-36

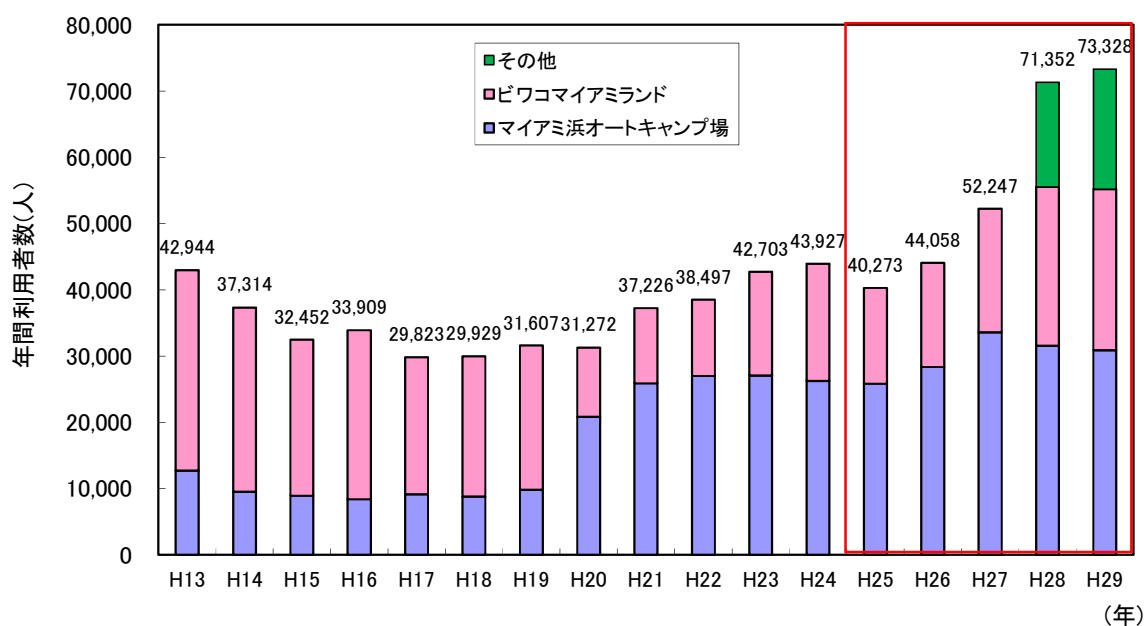
□ 主要施設

- ・観賞温室(1,159.7 m<sup>2</sup>)：熱帯スイレンを中心に、熱帯の水生植物や仏教に関する植物を展示している。
- ・常設展示室(182.51 m<sup>2</sup>)：ハスを始め水生植物を科学的、文化的な面から自然、文化、花、科学、情報に分類し、遊びながら知ることができる展示を行っている。
- ・企画展示室(118.73 m<sup>2</sup>)：植物等の展示を開催するコーナーとして設けている。

(3) ビワコマイアミランド（第三セクター）

1994年(平成6年)4月にオープンしたビワコマイアミランドは、沖島と雄大な比良山系を背景に白砂青松の環境にある。この恵まれた大自然の中で、キャンプやテニス、ローンフィールド、バードウォッチング等を楽しめ、また、四季折々の美しさの中で、野鳥公園、アイリスパーク等の自然を満喫できる施設である。また、平成20年度にはビーチバレー、平成21年度にはマレットゴルフ施設の利用が始まった。

利用者数は、平成13年度から平成17年度にかけて減少したが、その後増加している。平成28年度より集計を始めた各種イベント等の利用者も含めると、平成29年度は約7万3千人の利用者数となっている。



- ※ 上記利用者数値は、マイアミ浜オートキャンプ場とマイアミランド利用者数の合計値
- ※ ビワコマイアミランド利用者数には、自由広場・テニスコート・パターゴルフ場、ビーチバレー、マレットゴルフの利用者を含む
- ※ その他：アヤメ園来場者、ウォーキング等、各種イベント等であり、平成28年度より集計

図 7.4.1-11 ビワコマイアミランド等の年間利用者数

文献リスト No. 7-37

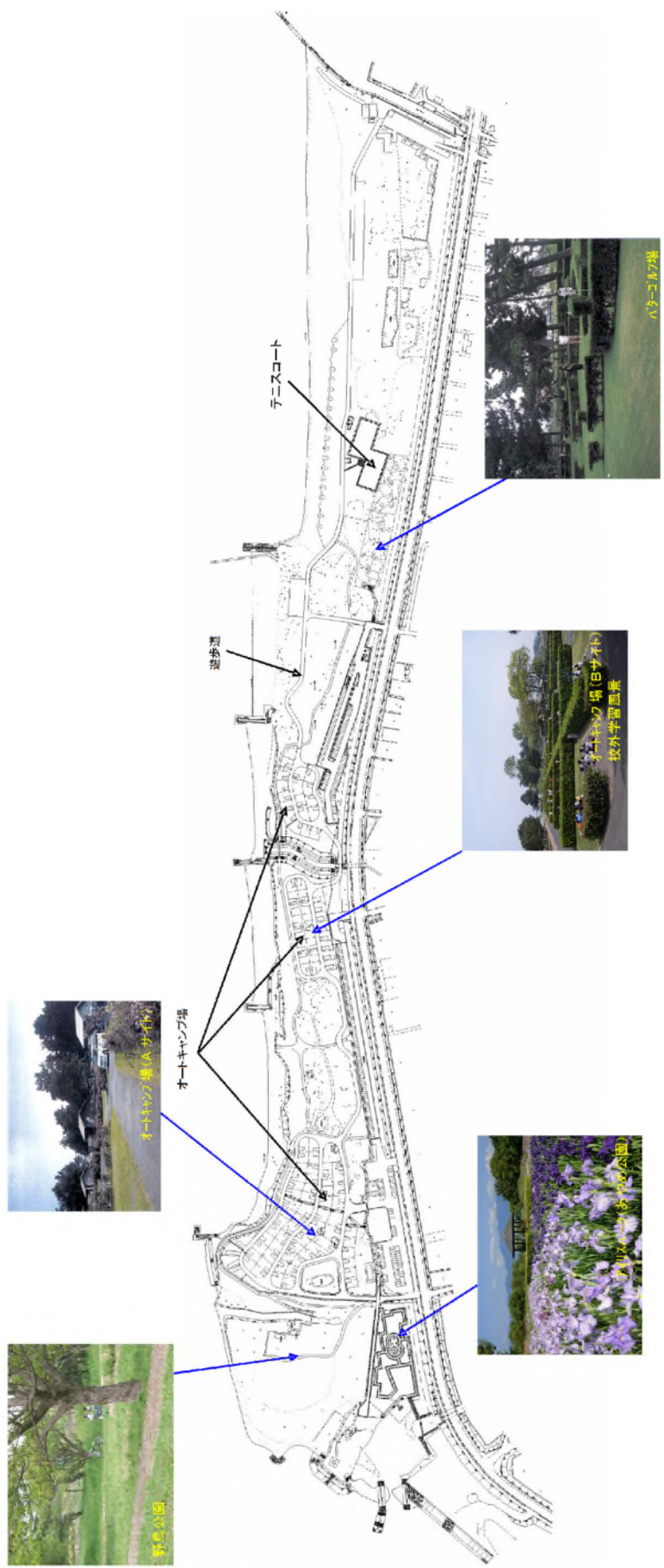


図 7.4.1-12 ビワコマイアミランドの施設配置図





図 7.4.1-13 ビワコマイアミランドの施設利用状況

#### (4) 湖岸や前浜の利活用

琵琶湖開発事業により、湖岸堤・管理用道路を整備するとともに、滋賀県では湖岸周辺にあった道路も改装や付け替えなどの整備を行っている。これらにより琵琶湖の湖辺を一周できる道路網が形成され、産業や暮らし、観光に活用されているほか、サイクリング、ジョギング等の余暇活動にも利用されている。

また、湖岸堤の設置にあたっては、堤防本体と汀線（陸と湖との境界）との間に前浜を設け、琵琶湖に生きる多くの生きものたちにとって大切なエリアとして、また、水辺を最大限に活用した親水空間として利活用されている。都市部（京都、大阪、神戸や名古屋）から数時間で行くことができることもあって、一年を通じて多くの方が訪れ、キャンプやバーベキュー、テニス、パターゴルフ、ウォータースポーツ、魚釣りといったレジャーや散策、ボードウォチングといった多種多様な趣味や余暇活動に利用されている。また、市民やNPOが主体となった美化活動等が実施されている。

滋賀県では、自転車政策「ビワイチ」の推進を図る中で、琵琶湖一周ができる自転車道（約193km）の整備に着手しており、年間利用者15万人を目標（現在9.5万人：10ヶ年計画）に地域振興が期待されている。湖岸堤の管理用通路と車道の干渉帯である植樹帯の一部を高速自転車通行空間（車道混在）に創設するもので、滋賀県により2017年度（平成29年度）から整備が開始されている。



図 7.4.1-14 湖岸堤・管理用道路の利用状況



守山市



高島市



近江八幡市



草津市

図 7.4.1-15 前浜の活用事例



昆虫観察会（平成 29 年 7 月 22 日、23 日）



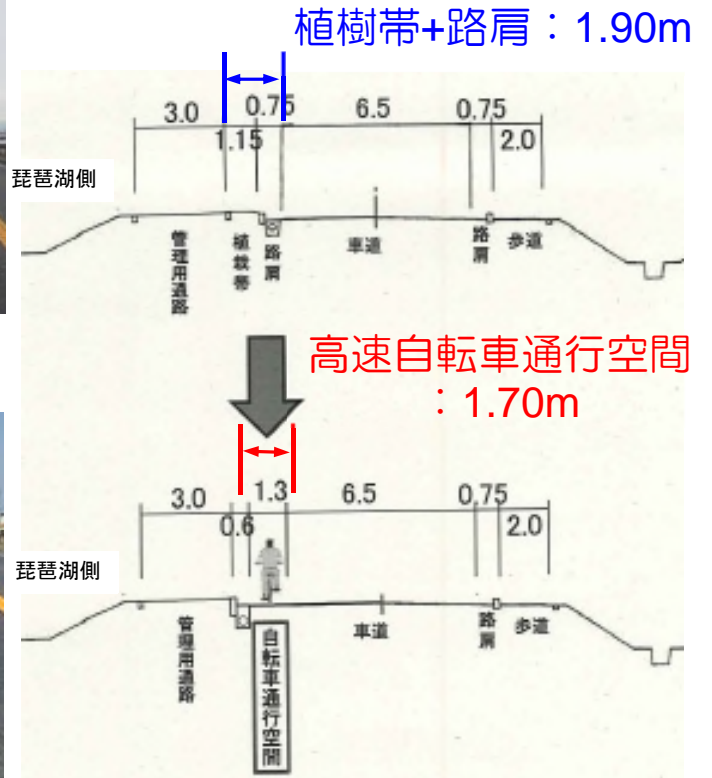
外来魚釣り体験（平成 29 年 7 月 29 日）

図 7.4.1-16 琵琶湖周辺の活動事例

文献リスト No. 7-38



湖岸道路の現状



琵琶湖一周ができる自転車道（約 193km）  
 利用者 15 万人/年を目標（現在 9.5 万人）  
 平成 29 年度整備開始

図 7.4.1-17 湖岸堤を利用した「ビワイチ」構想

## 7.4.2 周辺施設の利用状況

### (1) 滋賀県への来訪者

滋賀県が2010年（平成22年）に観光地60地点、2000年（平成12年）及び2005年（平成17年）に観光地62地点、2016年（平成28年）は10地点を対象に、アンケートを実施した。なお、観光客を対象に調査時期及び回答数を限定し実施したアンケート調査のため、利用人数の変化は把握できない。

滋賀県、京都府からの来訪者の割合が減少し、他府県からの来訪者の割合が増加している。年齢は40歳代～60歳代が多くなっている。また、旅行目的では、「自然の風景を見る」、「神社仏閣・旧跡」、「街並み・施設を見る」等の比率が高くなっている。

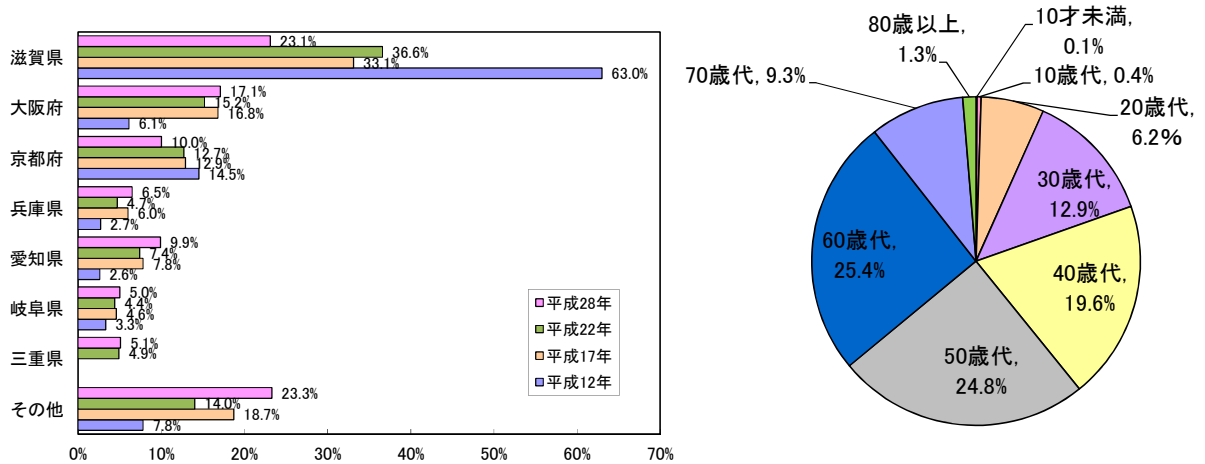


図 7.4.2-1 滋賀県に来訪された方の割合（左：住所、右：年齢(平成28年のみ)）

出典：文献リスト No. 7-39、7-40

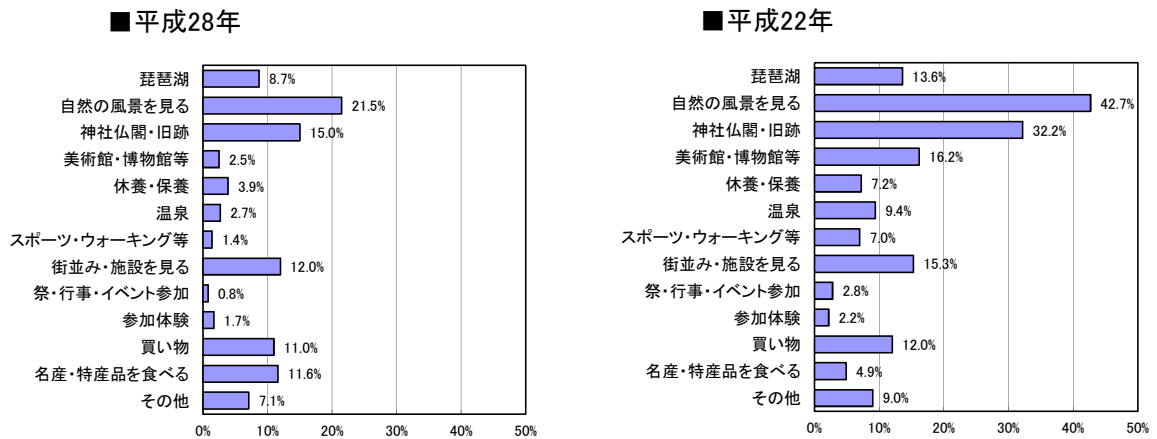


図 7.4.2-2 滋賀県に来訪された方の旅行目的に関する調査  
(平成22年度・平成28年度調査)

出典：文献リスト No. 7-39、7-40

## (2) 琵琶湖水浴場の利用

琵琶湖水浴場の利用を図 7.4.2-4 に示す。

2013年度（平成25年度）から2017年度（平成29年度）の利用者数は、滋賀県全体で15万人～20万人程度であった。



図 7.4.2-3 琵琶湖水浴場位置図

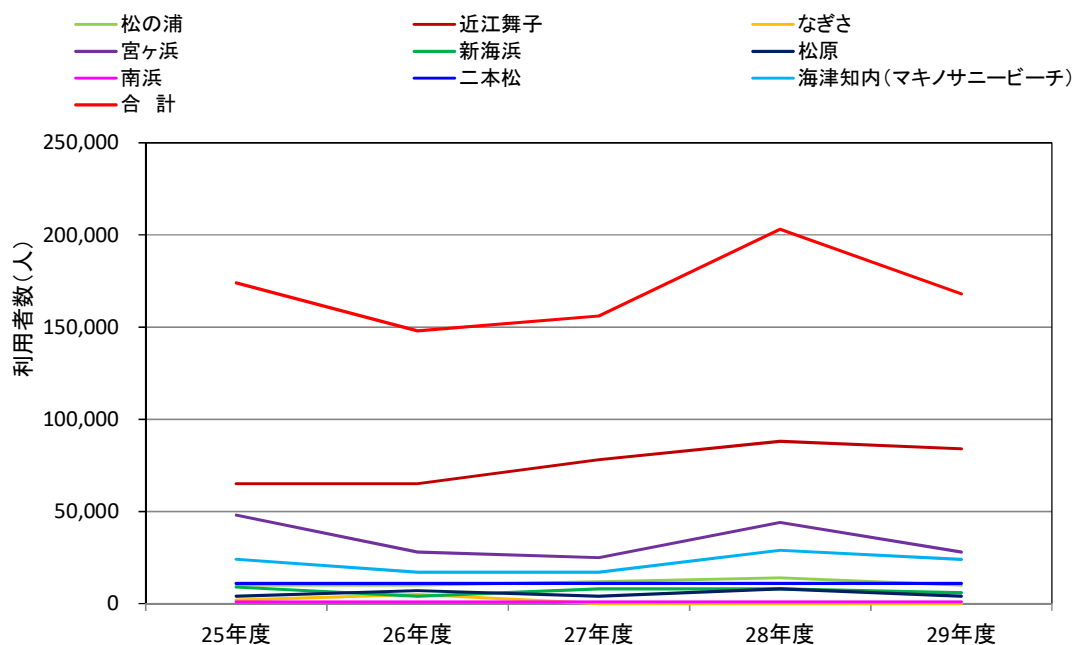


図 7.4.2-4 琵琶湖水浴場の利用者数

出典：文献リスト No. 7-42

表 7.4.2-1 琵琶湖水浴場の利用者数

水浴場名	所在地	調査地点数	利用者数(人)				
			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
松の浦	滋賀町荒川字松の浦地先	2	10,000	10,000	12,000	14,000	10,000
近江舞子	滋賀町南小松地先	2	65,000	65,000	78,000	88,000	84,000
なぎさ	守山市今浜町字十軒家地先	1	2,000	5,000	-	-	-
宮ヶ浜	近江八幡市沖島町宮ヶ浜地先	1	48,000	28,000	25,000	44,000	28,000
新海浜	彦根市新海町地先	1	9,000	4,000	8,000	8,000	6,000
松原	彦根市松原町地先	1	4,000	7,000	4,000	8,000	4,000
南浜	びわ町南浜地先	1	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
二本松	西浅井町大浦大門2191-1地先	1	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
海津知内(マキノサニービーチ)	高島市マキノ町高木地先および知内地先	1	24,000	17,000	17,000	29,000	24,000
合計			174,000	148,000	156,000	203,000	168,000

注) 松原の調査地点数は平成25年度は2地点、平成26年度以降は1地点に変更されている。

出典：文献リスト No. 7-41

## 7.5 まとめ（案）

- ・琵琶湖周辺には、様々な観光資源に加えて、豊かな自然環境を用いた教育施設が多数存在しており、地域住民等に利用されていることに加えて、他府県からの利用者も多い。
- ・学校関係・地域住民・市民団体等、地域とのコミュニケーションを様々な形で展開し、地域との連携協力を努めている。

### <今後の対応>

- ・今後も関係機関や地域との連携を深めていく。
- ・琵琶湖は淀川流域の貴重な水源であり、環境保全の重要性などについて上下流交流を促進し、活動を進めていく。

## 7.6 文献リスト

琵琶湖の周辺地域動態に係わるとりまとめのため、以下の資料を収集整理した。

表 7.6-1(1) 「7.周辺地域動態」に使用した資料リスト

No.	定期 報告書 の頁	文献・資料名	発行者	発行年月	文献の 引用頁
7-1	7-2	平成 29 年全国都道府県市区町村別面積調	国土交通省国土地理院 HP		HP
7-2	7-4	琵琶湖周辺地域環境利用ガイド	滋賀県	1985 年(昭和 60 年)	-
7-3	7-5 7-6	国勢調査報告	総務省統計局	-	HP
7-4	7-5	滋賀県推計人口年報	滋賀県統計課	2012 年(平成 24 年)10 月	HP
7-5	7-7	滋賀県統計書	滋賀県総合政策部統計課、	2016 年度(平成 28 年度)	HP
7-6	7-7	日本の長期統計系列	総務省統計局 HP	-	HP
7-7	7-8 ~10	琵琶湖博物館 研究調査報告書 6 号	滋賀県	1998 年(平成 10 年)	-
7-8	7-11	国土交通省国土数値情報 ダウンロード サービス 土地利用細分メッシュデータ	国土交通省国土政策局 国土整備課	平成 26 年度	HP
7-9	7-12	しが統計ハンドブック(2018 年版)	滋賀県総合政策部統計課	2018 年(平成 30 年)3 月	P41
7-10	7-12 7-17 7-18	滋賀県観光情報	公益社団法人びわこビジ ターズビューローHP	2018 年(平成 30 年)6 月	HP
7-11	7-13	滋賀県地図	滋賀県 HP	2017 年(平成 29 年) 9 月更新)	HP
7-12	7-13	平成 22 年滋賀県観光入込客統計調査書	滋賀県商工観光労働部 観光交流局、	2013 年(平成 25 年)2 月	P9~ 11
7-13	7-13	平成 28 年滋賀県観光入込客統計調査書	滋賀県商工観光労働部 観光交流局、	2018 年(平成 30 年)2 月	P2
7-14	7-13	平成 23 年(2011 年)京都府観光入込客調査 報告書	京都府商工労働観光部	2012 年(平成 24 年)8 月	HP
7-15	7-13	平成 28 年(2016 年)京都府観光入込客調査 報告書	京都府商工労働観光部	2017 年(平成 29 年)7 月	HP
7-16	7-13	大阪府観光統計調査報告書平成 22 年版	大阪府府民文化部都市魅 力創造局国際交流・観光課	2012 年(平成 24 年)1 月	P8
7-17	7-13	平成 23 年奈良県観光客動態調査報告書	奈良県観光局ならの魅力 創造課	-	P1
7-18	7-13	平成 28 年奈良県観光客動態調査報告書	奈良県観光局ならの観光 力向上課	-	HP
7-19	7-13	平成 24 年刊三重県統計書	三重県戦略企画部統計課 分析・情報班、	2012 年(平成 24 年)	HP
7-20	7-13	平成 30 年刊三重県統計書	三重県戦略企画部統計課	2018 年(平成 30 年)	P277
7-21	7-14 7-15 7-16	滋賀県観光関連資料	滋賀県広報課 HP	2012 年(平成 24 年)3 月	HP

表 7.6-1(2) 「7.周辺地域動態」に使用した資料リスト

No.	定期 報告書 の頁	文献・資料名	発行者	発行年月	文献の 引用頁
7-22	7-17 7-19 7-20 7-40	琵琶湖周辺の観光名所等	(独)水資源機構 琵琶湖開発総合管理所 HP	2018年(平成30年)5月	HP
7-23	7-21	琵琶湖水環境図説	建設省近畿地方建設局 琵琶湖工事事務所 (現 国土交通省近畿地方 整備局琵琶湖河川事務 所)	—	—
7-24	7-22	琵琶湖総合保全整備計画 マザーレイク 21 計画(第2期改訂版)	滋賀県琵琶湖環境部 琵琶湖政策課	2011年(平成23年)10月	P1
7-25	7-27 7-28 7-33	平成25年度管理フォローアップ年次報告書	(独)水資源機構 琵琶湖開発総合管理所	2014年(平成26年)3月	—
7-26	7-29 7-34	平成26年度管理フォローアップ年次報告書	(独)水資源機構 琵琶湖開発総合管理所	2015年(平成27年)3月	—
7-27	7-30 7-35	平成27年度管理フォローアップ年次報告書	(独)水資源機構 琵琶湖開発総合管理所	2016年(平成28年)3月	—
7-28	7-31 7-35	平成28年度管理フォローアップ年次報告書	(独)水資源機構 琵琶湖開発総合管理所	2017年(平成29年)3月	—
7-29	7-32 7-36	平成29年度管理フォローアップ年次報告書	(独)水資源機構 琵琶湖開発総合管理所	2018年(平成30年)3月	—
7-30	7-37	(独)水資源機構琵琶湖開発総合管理所 HP	(独)水資源機構 琵琶湖開発総合管理所	—	HP
7-31	7-38	水のめぐみ館アクア琵琶提供資料	水のめぐみ館アクア琵琶	—	—
7-32	7-39	水のめぐみ館アクア琵琶 HP	水のめぐみ館アクア琵琶	2018年(平成30年)5月	HP
7-33	7-41	滋賀県立琵琶湖博物館提供資料	滋賀県立琵琶湖博物館	—	—
7-34	7-42	滋賀県立琵琶湖博物館 HP	滋賀県立琵琶湖博物館	2018年(平成30年)11月	HP
7-35	7-43	草津市立水生植物公園みずの森提供資料	草津市立水生植物公園 みずの森	—	—
7-36	7-43	草津市立水生植物公園みずの森 HP	草津市立水生植物公園 みずの森	—	HP
7-37	7-44	野洲市湖岸開発株式会社提供資料	野洲市湖岸開発株式会 社	—	—
7-38	7-47	近江鉄道株式会社 HP	近江鉄道株式会社	—	HP
7-39	7-48	平成22年滋賀県観光動態調査結果 概要版 滋	滋賀県商工観光労働部 観光交流局	2011年(平成23年)3月	P1~2
7-40	7-48	平成29年版 滋賀県の商工業	滋賀県商工政策課	平成29年(2017年)9月	P147
7-41	7-49	水浴場水質調査結果	環境省水・大気環境局	—	HP